

#

#

#

#

[illegible]

設計書_R7西下第8号_関屋排水区関新3号幹線12~40管更生工事.pdf

総括情報表

事務所 設計書名 変更回数 事業名 適用単価区分 適用単価地区 単価適用日/適用基準日	40 201 新潟市 実施設計書 0 当初 1 実施単価 29 新潟① 0-07.06.20(0)					
諸経費体系 ファイル名	7 下水道 R:¥設計書¥2025_令和07年度¥054西部地域下水道事務所¥01当初¥0507-西下第8号-当初-関屋排水区関新3号幹線12～40管更生工事. ES5					
	当 世 代			前 世 代		
工種区分 施工地域区分 現場環境改善費 前払率 契約保証に係る保証 消費税率 労務単価の補正率 週休2日補正の有無 小型車補正の有無	04 下水道工事(4) 02 大都市(2) 01 大都市・市街地 40 40％ 01 金銭的保証 04 10％ 21 0%:補正なし 14 通期(現場閉所)R6.10 00 小型車補正なし					
	工事価格	消費税相当額	工事費	工事価格	消費税相当額	工事費
本工事価格 工事価格計	162,390,000 162,390,000	16,239,000 16,239,000	178,629,000 178,629,000			

07-実施-下水-1111-当初

＊ ＊ 本工事費 ＊ ＊ 内訳表

頁0-0014

費目・工種・施工名称・管理費区分	数	量	単 位	単 価	金 額	備 考
＊ ＊ 本工事費 ＊ ＊						X1000
管路						YG000000001 05=解除する
0 省略			式		93,959,681	
管渠更生工						YG000000002
0 省略			式		93,959,681	
管渠更生						YG000000003
0 省略			式		50,806,127	
ストリップ管						YG000000004
			一式		50,806,127	
ダンパー工法 ストリップ S形 幅255mm 厚12.5mm 新潟市設計単価表 (別冊) P.16 0 省略	3,210.59	m		8,390	26,936,850	FDB1001 0
ダンパー工法 SFジョイナー S形 幅35mm 新潟市設計単価表 (別冊) P.16 0 省略	3,210.59	m		1,930	6,196,438	FDB1002 0
ダンパー工法 ストリップ L形 幅250mm 厚17.5mm 新潟市設計単価表 (別冊) P.16 0 省略	1,445.04	m		10,100	14,594,904	FDB10011 0
ダンパー工法 SFジョイナー L形 幅30mm 新潟市設計単価表 (別冊) P.16 0 省略	1,445.04	m		2,130	3,077,935	FDB10021 0

07-実施-下水-1111-当初

＊ ＊ 本工事費 ＊ ＊ 内訳表

頁0-0015

費目・工種・施工名称・管理費区分	数	量	単	位	単	価	金	額	備	考
製管工				式			8,889,061		YG000000007	
スパーサー取付工 既設管径：φ1000mm以上φ1500mm以下 φ1100mm ダンパー工法積算 0 省略	90.25		m		40,062		3,615,595		VC201 0	施工 第0-0001号内訳表
スパーサー取付工 既設管径：φ1000mm以上φ1500mm以下 φ1500mm ダンパー工法積算 0 省略	88.20		m		20,796		1,834,207		VC2011 0	施工 第0-0002号内訳表
端部製管工（人力） 既設管径：φ1000mm以上φ1500mm以下 φ1000mm, φ1100mm ダンパー工法積算 0 省略	6.0		m		16,388		98,328		VC202 0	施工 第0-0003号内訳表
端部製管工（人力） 既設管径：φ1000mm以上φ1500mm以下 φ1350mm, φ1500mm ダンパー工法積算 0 省略	4.5		m		21,071		94,819		VC2021 0	施工 第0-0006号内訳表
製管工 既設管径：φ1000mm以上φ1500mm以下 φ1000mm, φ1100mm ダンパー工法積算 0 省略	202.15		m		6,844		1,383,514		VC203 0	施工 第0-0007号内訳表
製管工 既設管径：φ1000mm以上φ1500mm以下 φ1350mm ダンパー工法積算 0 省略	66.65		m		8,555		570,190		VC2031 0	施工 第0-0008号内訳表
製管工 既設管径：φ1000mm以上φ1500mm以下 φ1500mm ダンパー工法積算 0 省略	85.20		m		8,767		746,948		VC2032 0	施工 第0-0009号内訳表
端部緊張工 既設管径：φ800mm以上φ2000mm以下 φ1000mm ダンパー工法積算 0 省略	4		箇所		37,740		150,960		VC206 0	施工 第0-0010号内訳表

07-実施-下水-1111-当初

＊ ＊ 本工事費 ＊ ＊ 内訳表

頁0-0016

費目・工種・施工名称・管理費区分	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
端部緊張工 既設管径：φ 800mm以上 φ 2000mm以下 φ 1100mm ダンパー工法積算 0 省略	4	箇所	38,290	153,160	VC2061 0 施工 第0-0011号内訳表
端部緊張工 既設管径：φ 800mm以上 φ 2000mm以下 φ 1350mm ダンパー工法積算 0 省略	2	箇所	39,690	79,380	VC2062 0 施工 第0-0012号内訳表
端部緊張工 既設管径：φ 800mm以上 φ 2000mm以下 φ 1500mm ダンパー工法積算 0 省略	4	箇所	40,490	161,960	VC2063 0 施工 第0-0013号内訳表
充てん材注入工		式		14,236,493	YG000000024
充てん材注入工（管内注入方式） 既設管径：φ 800mm以上2000mm以下 φ 1000mm ダンパー工法積算 0 省略	117.90	m	28,166	3,320,771	VC301 0 施工 第0-0014号内訳表
充てん材注入工（ホース牽引方式） 既設管径：φ 800mm以上2000mm以下 φ 1100mm ダンパー工法積算 0 省略	90.25	m	32,368	2,921,212	VC3011 0 施工 第0-0019号内訳表
充てん材注入工（管内注入方式） 既設管径：φ 800mm以上2000mm以下 φ 1350mm ダンパー工法積算 0 省略	68.15	m	47,034	3,205,367	VC3012 0 施工 第0-0020号内訳表
充てん材注入工（ホース牽引方式） 既設管径：φ 800mm以上2000mm以下 φ 1500mm ダンパー工法積算 0 省略	88.20	m	46,576	4,108,003	VC3013 0 施工 第0-0021号内訳表
充てん材スッパ－工 φ 1000mm ダンパー工法積算 0 省略	4	箇所	4,910	19,640	VC302 0 施工 第0-0022号内訳表

07-実施-下水-1111-当初

＊ ＊ 本工事費 ＊ ＊ 内訳表

頁0-0017

費目・工種・施工名称・管理費区分	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
充てん材スッパ－工 φ1100mm ダンペ－工法積算 0 省略	4	箇所	6,197	24,788	VC3021 0 施工 第0-0024号内訳表
充てん材スッパ－工 φ1350mm ダンペ－工法積算 0 省略	2	箇所	8,769	17,538	VC3022 0 施工 第0-0025号内訳表
充てん材スッパ－工 φ1500mm ダンペ－工法積算 0 省略	4	箇所	7,483	29,932	VC3023 0 施工 第0-0026号内訳表
管内注入口工 既設管径：φ1000mm以上1200mm以下 ダンペ－工法積算 0 省略	96	箇所	4,017	385,632	VC30311 0 施工 第0-0027号内訳表
管内注入口工 既設管径：φ1350mm以上1650mm以下 ダンペ－工法積算 0 省略	55	箇所	3,702	203,610	VC3031 0 施工 第0-0028号内訳表
補強鉄筋工		式		5,288,800	YG000000047
補強鉄筋設置工 既設管径 φ1000mm 主鉄筋SD295 D10 9.32kg/m 配力鉄筋SD295 D10 6.72kg/m 見積歩掛 0 省略	117.90	m	24,870	2,932,173	VC201T 0 施工 第0-0029号内訳表
補強鉄筋設置工 既設管径 φ1350mm 主鉄筋SD345 D13 22.94kg/m 配力鉄筋SD345 D13 15.92kg/m 見積歩掛 0 省略	68.15	m	34,580	2,356,627	VC202T 0 施工 第0-0031号内訳表
管口仕上工		式		1,454,037	YG000000034

07-実施-下水-1111-当初

＊ ＊ 本工事費 ＊ ＊ 内訳表

頁0-0018

費目・工種・施工名称・管理費区分	数	量	単 位	単 価	金 額	備 考
管口仕上工（本管）						VC401 0 01=2.1
ダンパー工法積算 0 省略	4		箇所	13,140	52,560	施工 第0-0033号内訳表
管口仕上工（本管）						VC401 0 01=2.2
ダンパー工法積算 0 省略	4		箇所	13,770	55,080	施工 第0-0035号内訳表
管口仕上工（本管）						VC401 0 01=3.4
ダンパー工法積算 0 省略	2		箇所	21,270	42,540	施工 第0-0036号内訳表
管口仕上工（本管）						VC401 0 01=2.3
ダンパー工法積算 0 省略	4		箇所	14,390	57,560	施工 第0-0037号内訳表
管口仕上工（取付管）						VC101 0
ダンパー工法積算 0 省略	61		箇所	20,040	1,222,440	施工 第0-0038号内訳表
管口仕上工（取付管） 250mm						VC1011 0
見積歩掛 0 省略	1		箇所	23,857	23,857	施工 第0-0039号内訳表
前処理工						YG000000045
			式		6,067,115	
止水工						YG000000046
			一式		6,067,115	
本管止水工（Y字管工法） 本管径800mm～1350mm 既設管径φ1000mm 下水道施設維持管理積算要領2020年版 P135 0 省略	28.3		m	42,900	1,214,070	VKD0040 0 施工 第0-0040号内訳表

07-実施-下水-1111-当初

＊ ＊ 本工事費 ＊ ＊ 内訳表

頁0-0019

費目・工種・施工名称・管理費区分	数	量	単 位	単 価	金 額	備 考
本管止水工 (Y字管工法) 本管径800mm～1350mm 既設管径φ1100mm 下水道施設維持管理積算要領2020年版 P135 0 省略	20.8	m		42,546	884,956	VKD0041 0 施工 第0-0045号内訳表
本管止水工 (Y字管工法) 本管径800mm～1350mm 既設管径φ1350mm 下水道施設維持管理積算要領2020年版 P135 0 省略	68.8	m		41,880	2,881,344	VKD0042 0 施工 第0-0046号内訳表
本管止水工 (Y字管工法) 本管径1500mm以上 既設管径φ1500mm 下水道施設維持管理積算要領2020年版 P135 0 省略	28.3	m		37,688	1,066,570	VKD0043 0 施工 第0-0047号内訳表
取付管口止水工 (Y字管工法) 管口部 取付管径φ150mm 下水道施設維持管理積算要領2020年版 P135 0 省略	0.5	m		40,350	20,175	VKD00401 0 施工 第0-0048号内訳表
換気工						YG000000039
			式		482,898	
換気設備工						VC501 0
ダンパー工法積算 0 省略	78.0	口		6,191	482,898	施工 第0-0049号内訳表
交通管理工						YG000002001
0 省略			式		6,735,150	
交通誘導警備員						YG000002002
0 省略			一式		6,735,150	
交通誘導警備員B						SWB010212 0
0 省略	405	人	口	16,630	6,735,150	施工 第0-0051号内訳表

07-実施-下水-1111-当初

＊ ＊ 本工事費 ＊ ＊ 内訳表

頁0-0020

費目・工種・施工名称・管理費区分	数	量	単 位	単 価	金 額	備 考
直接工事費					93,959,681	
準備費			式		502,972	Z0003
既設管洗浄・調査工			式		484,399	YZ000000009 05=解除する
0 省略			式			
既設管洗浄工 既設管径：φ1000mm以上φ1350mm以下	276.30	m	934	258,064	VC207 0	施工 第0-0052号内訳表
ダクト工法積算 0 省略						
既設管洗浄工 既設管径：φ1500mm以上φ2000mm以下	88.20	m	1,245	109,809	VC2071 0	施工 第0-0053号内訳表
ダクト工法積算 0 省略						
既設管内調査工 既設管径：φ800mm以上1500mm未満	276.30	m	333	92,007	VC801 0	施工 第0-0054号内訳表
ダクト工法積算 0 省略						
既設管内調査工 既設管径：φ1500mm以上2000mm以下	88.20	m	278	24,519	VC8011 0	施工 第0-0056号内訳表
ダクト工法積算 0 省略						
換気工			式		18,573	YZ000000010 05=解除する
0 省略			式			
換気設備工						VC501 0
ダクト工法積算 0 省略	3.0	口	6,191	18,573	施工 第0-0049号内訳表	

07-実施-下水-1111-当初

＊ ＊ 本工事費 ＊ ＊ 内訳表

頁0-0021

費目・工種・施工名称・管理費区分	数	量	単 位	単 価	金 額	備 考
現場環境改善費			式		2,179,000	Z0014
$A*B$ 対象額---A=93,959,681 率-----B=0.0232					2,179,864	
共通仮設費（ 率分） $A*(B*F*L)$ 対象額---A=93,959,681 率-----B=0.0555			地域補正率F=1.5000 休日補正率L=1.0200		7,986,000	
共通仮設費計					10,667,972	
純工事費					104,627,653	
現場管理費（ 率分） $A*(B*F*L)$ 対象額---A=104,627,653 率-----B=0.2696			地域補正率F=1.2000 休日補正率L=1.0300		34,861,000	
現場管理費計					34,861,000	
工事原価					139,488,653	
工事原価計					139,488,653	

07-実施-下水-1111-当初

＊ ＊ 本工事費 ＊ ＊ 内訳表

頁0-0022

費目・工種・施工名称・管理費区分	数	量	単 位	単 価	金 額	備 考
一般管理費等 A*(B*H) 対象額---A=139,488,653 率-----B=0.1638			前払補正率H=1.0000		22,846,347	
契約保証費 A*B 対象額---A=139,488,653 率-----B=0.0004					55,000	
一般管理費等 計					22,901,347	
工事価格					162,390,000	
消費税相当額 A*B 対象額---A=162,390,000 率-----B=0.1000					16,239,000	
工事費					178,629,000	

07-実施-下水-1111-当初

スパー取付工
既設管径: φ 1000mm以上 φ 1500mm以下
φ 1100mm
ダンパー工法積算資料R6年度版 I-27

VC201

施 工 内 訳 表

施工 第0-0001号内訳表

07年06月20日適用

頁0-0023

32 m 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考 ・ 雑 材 料 区 分 ・ 管 理 費 区 分
頂部スパー M型 厚2.3mm 幅590×長1200mm 見積15,500円/m	32	m	15,500	496,000	FDB1003 0 省略
底部スパー 特殊型 厚さ2.3mm 幅590mm 見積17,000円/m	32	m	17,000	544,000	FDB1005 0 省略
土木一般世話役	1	人	28,560	28,560	RR0125 1 0 省略
トシ補特殊工	1	人	47,532	47,532	RR0119 1 0 省略
トシ補作業員	3	人	32,640	97,920	RR0120 1 0 省略
普通作業員	2	人	23,358	46,716	RR0102 1 0 省略
諸雑費（率+まるめ）	10	%	220,728	21,272	#71 0 省略
計	32	m		1,282,000	
小計	1	m		40,062	

07-実施-下水-1111-当初

スパーサー取付工
既設管径：φ1000mm以上φ1500mm以下
φ1500mm
ダンパー工法積算資料R6年度版 I-27

VC2011

施 工 内 訳 表

施工 第0-0002号内訳表

07年06月20日適用

頁0-0024

54 m 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考 ・ 雑 材 料 区 分 ・ 管 理 費 区 分
頂部スパー L型 厚2.3mm 幅570×長1200mm 見積16,300円/m	54	m	16,300	880,200	FDB1004 0 省略
土木一般世話役	1	人	28,560	28,560	RR0125 1 0 省略
トンネル特殊工	1	人	47,532	47,532	RR0119 1 0 省略
トンネル作業員	3	人	32,640	97,920	RR0120 1 0 省略
普通作業員	2	人	23,358	46,716	RR0102 1 0 省略
諸雑費（率+まるめ）	10	%	220,728	22,072	#71 0 省略
計	54	m		1,123,000	
小計	1	m		20,796	

07-実施-下水-1111-当初

端部製管工（人力）
既設管径：φ 1000mm以上 φ 1500mm以下
φ 1000mm, φ 1100mm
ダンバー工法積算資料R6年度版 I-29

VC202

施 工 内 訳 表

施工 第0-0003号内訳表

07年06月20日適用

頁0-0025

18 m 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備考・雑材料区分・管理費区分
土木一般世話役	1	人	28,560	28,560	RR0125 0 省略
トンネル特殊工	1	人	47,532	47,532	RR0119 0 省略
トンネル作業員	3	人	32,640	97,920	RR0120 0 省略
普通作業員	2	人	23,358	46,716	RR0102 0 省略
ストリップファイダー損料 縦型回転方式 見積19,100円/日	1.0	口	19,100	19,100	FDB2002 0 省略
発動発電機運転工	1.0	口	10,490	10,490	VSK1510030 施工 第0-0004号内訳表 ダンバー工法積算 0 省略
クレーン付トラック運転工 4t 2.9t吊	1.0	口	44,600	44,600	VSK0302013 施工 第0-0005号内訳表 ダンバー工法積算 0 省略
諸雑費（まるめ）	1	式		82	#80 0 省略
計	18	m		295,000	
小計	1	m		16,388	

07-実施-下水-1111-当初

VSK1510030 施 工 内 訳 表

施工 第0-0004号内訳表

ガンバー工法積算資料R6年度版 I-31

1 日 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備考・雑材料区分・管理費区分
軽油	49	1	149	7,301	TZJ6702002 0 省略
発動発電機[ディーゼルエンジン駆動] 60KVA	1.2	日	2,650	3,180	TLC1110011 0 省略
諸雑費（まるめ）	1	式		9	#80 0 省略
小計	1	口		10,490	

07-実施-下水-1111-当初

クレーン付トラック運転工
4t 2.9t吊

07年06月20日適用

頁0-0027

VSK0302013 施 工 内 訳 表

施工 第0-0005号内訳表

ガンバー工法積算資料R6年度版 I-31

1 日 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備考・雑材料区分・管理費区分
軽油	31	1	149	4,619	TZJ6702002 0 省略
運転手(特殊)	1.0	人	27,336	27,336	RR0114 0 省略
トラック[クレーン装置付] ベーストラック4〜4.5t積 吊能力2.9t	5.8	時間	2,180	12,644	MMJ0302013 0 省略
諸雑費(まるめ)	1	式		1	#80 0 省略
小計	1	口		44,600	

07-実施-下水-1111-当初

端部製管工（人力）
既設管径：φ 1000mm以上 φ 1500mm以下
φ 1350mm, φ 1500mm
ダンバー工法積算資料R6年度版 I-29

VC2021

施 工 内 訳 表

施工 第0-0006号内訳表

07年06月20日適用

頁0-0028

14 m 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備考・雑材料区分・管理費区分
土木一般世話役	1	人	28,560	28,560	RR0125 0 省略
トンネル特殊工	1	人	47,532	47,532	RR0119 0 省略
トンネル作業員	3	人	32,640	97,920	RR0120 0 省略
普通作業員	2	人	23,358	46,716	RR0102 0 省略
スリップファイダー損料 縦型回転方式 見積19,100円/日	1.0	口	19,100	19,100	FDB2002 0 省略
発動発電機運転工	1.0	口	10,490	10,490	VSK1510030 施工 第0-0004号内訳表 ダンバー工法積算 0 省略
クレーン付トラック運転工 4t 2.9t吊	1.0	口	44,600	44,600	VSK0302013 施工 第0-0005号内訳表 ダンバー工法積算 0 省略
諸雑費（まるめ）	1	式		82	#80 0 省略
計	14	m		295,000	
小計	1	m		21,071	

07-実施-下水-1111-当初

製管工
既設管径：φ 1000mm以上 φ 1500mm以下
φ 1000mm, φ 1100mm
ダンパー工法積算資料R6年度版 I-30

VC203

施 工 内 訳 表

施工 第0-0007号内訳表

07年06月20日適用

頁0-0029

50 m 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考 ・ 雑 材 料 区 分 ・ 管 理 費 区 分
土木一般世話役	1	人	28,560	28,560	RR0125 0 省略
トンネル特殊工	1	人	47,532	47,532	RR0119 0 省略
トンネル作業員	3	人	32,640	97,920	RR0120 0 省略
普通作業員	2	人	23,358	46,716	RR0102 0 省略
製管機損料 エア駆動 円形管用 φ 1350mm以下 見積45,500円/日	1.0	口	45,500	45,500	FDB2003 0 省略
ストリップファイダー損料 縦型回転方式 見積19,100円/日	1.0	口	19,100	19,100	FDB2002 0 省略
空気圧縮機 吐出量1.4m3/min吐出圧力0.7MPa 可搬式・エンジン駆動・スクリュー型・排出ガス対策型(第1次基準値)運転日当り換算値(無積雪地(c1))	1.0	口	1,760	1,760	FDB2004 建設機械損料表 0 省略
発動発電機運転工	1.0	口	10,490	10,490	VSK1510030 施工 第0-0004号内訳表 ダンパー工法積算 0 省略
クレーン付トラック運転工 4t 2.9t吊	1.0	日	44,600	44,600	VSK0302013 施工 第0-0005号内訳表 ダンパー工法積算 0 省略
諸雑費(まるめ)	1	式		22	#80 0 省略
計	50	m		342,200	
小計	1	m		6,844	

07-実施-下水-1111-当初

製管工
既設管径：φ1000mm以上φ1500mm以下
φ1350mm
ダンパー工法積算資料R6年度版 I-30

VC2031

施工内訳表

施工 第0-0008号内訳表

07年06月20日適用

頁0-0030

40 m 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考 ・ 雑 材 料 区 分 ・ 管 理 費 区 分
土木一般世話役	1	人	28,560	28,560	RR0125 0 省略
トンネル特殊工	1	人	47,532	47,532	RR0119 0 省略
トンネル作業員	3	人	32,640	97,920	RR0120 0 省略
普通作業員	2	人	23,358	46,716	RR0102 0 省略
製管機損料 エア駆動 円形管用 φ1350mm以下 見積45,500円/日	1.0	口	45,500	45,500	FDB2003 0 省略
ストリップファイダー損料 縦型回転方式 見積19,100円/日	1.0	口	19,100	19,100	FDB2002 0 省略
空気圧縮機 吐出量1.4m ³ /min吐出圧力0.7MPa 可搬式・エンジン駆動・スクリュー型・排出ガス対策型(第1次基準値)運転日当り換算値(無積雪地(c1))	1.0	口	1,760	1,760	FDB2004 建設機械損料表 0 省略
発動発電機運転工	1.0	口	10,490	10,490	VSK1510030 施工 第0-0004号内訳表 ダンパー工法積算 0 省略
クレーン付トラック運転工 4t 2.9t吊	1.0	日	44,600	44,600	VSK0302013 施工 第0-0005号内訳表 ダンパー工法積算 0 省略
諸雑費(まるめ)	1	式		22	#80 0 省略
計	40	m		342,200	
小計	1	m		8,555	

07-実施-下水-1111-当初

製管工
既設管径：φ 1000mm以上 φ 1500mm以下
φ 1500mm
ダンパー工法積算資料R6年度版 I-30

VC2032

施 工 内 訳 表

施工 第0-0009号内訳表

07年06月20日適用

頁0-0031

40 m 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考 ・ 雑 材 料 区 分 ・ 管 理 費 区 分
土木一般世話役	1	人	28,560	28,560	RR0125 0 省略
トンネル特殊工	1	人	47,532	47,532	RR0119 0 省略
トンネル作業員	3	人	32,640	97,920	RR0120 0 省略
普通作業員	2	人	23,358	46,716	RR0102 0 省略
製管機損料 エア駆動 円形管用 φ 1500mm以上 見積54,000円/日	1.0	口	54,000	54,000	FDB20031 0 省略
ストリップファイダー損料 縦型回転方式 見積19,100円/日	1.0	口	19,100	19,100	FDB2002 0 省略
空気圧縮機 吐出量1.4m3/min吐出圧力0.7MPa 可搬式・エンジン駆動・スクリュー型・排出ガス対策型(第1次基準値)運転日当り換算値(無積雪地(c1))	1.0	口	1,760	1,760	FDB2004 建設機械損料表 0 省略
発動発電機運転工	1.0	口	10,490	10,490	VSK1510030 施工 第0-0004号内訳表 ダンパー工法積算 0 省略
クレーン付トラック運転工 4t 2.9t吊	1.0	日	44,600	44,600	VSK0302013 施工 第0-0005号内訳表 ダンパー工法積算 0 省略
諸雑費(まるめ)	1	式		22	#80 0 省略
計	40	m		350,700	
小計	1	m		8,767	

07-実施-下水-1111-当初

端部緊張工
既設管径: φ 800mm以上 φ 2000mm以下
φ 1000mm
ダンパー工法積算資料R6年度版 I-34

VC206

施 工 内 訳 表

施工 第0-0010号内訳表

07年06月20日適用

頁0-0032

1 箇所 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備考・雑材料区分・管理費区分
トン初特殊工	0.2	人	47,532	9,506	RR0119 0 省略
トン初作業員	0.4	人	32,640	13,056	RR0120 0 省略
普通作業員	0.2	人	23,358	4,671	RR0102 0 省略
緊張リング損料 φ1000mm用 注入口金物共 見積10,500円/式	1	式	10,500	10,500	FDB2008 0 省略
諸雑費（まるめ）	1	式		7	#80 0 省略
小計	1	箇所		37,740	

07-実施-下水-1111-当初

端部緊張工
既設管径: φ 800mm以上 φ 2000mm以下
φ 1100mm
ダンパー工法積算資料R6年度版 I-34

VC2061

施 工 内 訳 表

施工 第0-0011号内訳表

07年06月20日適用

頁0-0033

1 箇所 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備考・雑材料区分・管理費区分
トン初特殊工	0.2	人	47,532	9,506	RR0119 0 省略
トン初作業員	0.4	人	32,640	13,056	RR0120 0 省略
普通作業員	0.2	人	23,358	4,671	RR0102 0 省略
緊張リング損料 φ1100mm用 注入口金物共 見積11,050円/式	1	式	11,050	11,050	FDB2009 0 省略
諸雑費（まるめ）	1	式		7	#80 0 省略
小計	1	箇所		38,290	

07-実施-下水-1111-当初

端部緊張工
既設管径: φ 800mm以上 φ 2000mm以下
φ 1350mm
ダンパー工法積算資料R6年度版 I-34

VC2062

施 工 内 訳 表

施工 第0-0012号内訳表

07年06月20日適用

頁0-0034

1 箇所 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備考・雑材料区分・管理費区分
トン初特殊工	0.2	人	47,532	9,506	RR0119 0 省略
トン初作業員	0.4	人	32,640	13,056	RR0120 0 省略
普通作業員	0.2	人	23,358	4,671	RR0102 0 省略
緊張リング損料 φ 1350mm用 注入口金物共 見積12,450円/式	1	式	12,450	12,450	FDB2010 0 省略
諸雑費（まるめ）	1	式		7	#80 0 省略
小計	1	箇所		39,690	

07-実施-下水-1111-当初

端部緊張工
既設管径: φ 800mm以上 φ 2000mm以下
φ 1500mm
ダンパー工法積算資料R6年度版 I-34

VC2063

施 工 内 訳 表

07年06月20日適用
頁0-0035
施工 第0-0013号内訳表
1 箇所 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備考・雑材料区分・管理費区分
トン初特殊工	0.2	人	47,532	9,506	RR0119 0 省略
トン初作業員	0.4	人	32,640	13,056	RR0120 0 省略
普通作業員	0.2	人	23,358	4,671	RR0102 0 省略
緊張リング損料 φ 1500mm用 注入口金物共 見積13,250円/式	1	式	13,250	13,250	FDB2011 0 省略
諸雑費（まるめ）	1	式		7	#80 0 省略
小計	1	箇所		40,490	

07-実施-下水-1111-当初

充てん材注入工（管内注入方式）
 既設管径：φ 800mm以上2000mm以下
 φ 1000mm
 ダンバー工法積算資料R6年度版 I-37

VC301

施 工 内 訳 表

施工 第0-0014号内訳表

07年06月20日適用

頁0-0036

48 m 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考 ・ 雑 材 料 区 分 ・ 管 理 費 区 分
充てん材 1 2号 DB2-1	3.21	m3	191,200	613,752	VC30101 施工 第0-0015号内訳表 ダンバー工法積算 0 省略
充てん材 2 2号 DB2-2	0.99	m3	108,000	106,920	VC30102 施工 第0-0016号内訳表 ダンバー工法積算 0 省略
土木一般世話役	1	人	28,560	28,560	RR0125 0 省略
トンネル特殊工	1	人	47,532	47,532	RR0119 0 省略
トンネル作業員	3	人	32,640	97,920	RR0120 0 省略
特殊作業員	2	人	28,152	56,304	RR0101 0 省略
普通作業員	2	人	23,358	46,716	RR0102 0 省略
充てん材注入プラント損料① 高速ミキサー・アジテーター・注入ポンプ・給水ポンプ 見積123,000円/日	1.0	口	123,000	123,000	FDB3001 1 0 省略
注入ホース巻取り機損料 3/4B×2本×120m巻② 巻取速度:0.5～26m/min 1.5kW 見積35,800円/日	1.0	日	35,800	35,800	FDB3002 1 0 省略
注入ホース引込ワイヤー損料 φ3～5 ワイヤ×120m巻③ 巻取速度:5～20m/min 0.75kW 見積763円/日	1.0	日	763	763	FDB3003 1 0 省略
注入ホース損料 先端混合ノズル共	50	%	159,563	79,781	#01 ①～③の50% 0 省略
発動発電機運転工	1.0	口	10,490	10,490	VSK1510030 施工 第0-0004号内訳表 ダンバー工法積算 0 省略

07-実施-下水-1111-当初

充てん材注入工（管内注入方式）
既設管径：φ 800mm以上2000mm以下
φ 1000mm
ダンパー工法積算資料R6年度版 I-37

07年06月20日適用

頁0-0037

VC301

施 工 内 訳 表

施工 第0-0014号内訳表

48

m 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備考・雑材料区分・管理費区分
給水車運転工	1.0	日	42,220	42,220	VC20701 施工 第0-0017号内訳表 ダンパー工法積算 0 省略
クレーン付トラック運転工 4t 2.9t吊	1.0	日	44,600	44,600	VSK0302013 施工 第0-0005号内訳表 ダンパー工法積算 0 省略
トラック運転工 4t	1.0	日	17,160	17,160	VSK0302004 施工 第0-0018号内訳表 ダンパー工法積算 0 省略
諸雑費（まるめ）	1	式		482	#80 0 省略
計	48	m		1,352,000	
小計	1	m		28,166	

07-実施-下水-1111-当初

充てん材 1
2号 DB2-1

07年06月20日適用

頁0-0038

VC30101

施 工 内 訳 表

施工 第0-0015号内訳表

ダンパー工法積算資料R6年度版 I-38

1 m3 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備考・雑材料区分・管理費区分
セメント(普通ポルランド) 25kg袋入	0.8	t	26,000	20,800	TZJ2002006 0 省略
ダンパー工法 混和剤 DB2 混和剤 2号充てん材1 新潟市設計単価表 (別冊) P.16	160.0	kg	190	30,400	FDB3004 0 省略
ダンパー工法 硬化材 DB2 硬化材 2号充てん材1 新潟市設計単価表 (別冊) P.16	250.0	kg	560	140,000	FDB3005 0 省略
水(無代)	580.0	kg		0	FDB3007 0 省略
諸雑費(まるめ)	1	式		0	#80 0 省略
小計	1	m3		191,200	

07-実施-下水-1111-当初

充てん材 2
2号 DB2-2

07年06月20日適用

頁0-0039

施 工 内 訳 表

VC30102

施工 第0-0016号内訳表

ダンパー工法積算資料R6年度版 I-38

1 m3 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備考・雑材料区分・管理費区分
セメント(普通ポルランド) 25kg袋入	1.2	t	26,000	31,200	TZJ2002006 0 省略
ダンパー工法 添加剤 DB2 添加剤 2号充てん材2 新潟市設計単価表 (別冊) P.16	40.0	kg	1,920	76,800	FDB3006 0 省略
水(無代)	595.0	kg		0	FDB3007 0 省略
諸雑費(まるめ)	1	式		0	#80 0 省略
小計	1	m3		108,000	

07-実施-下水-1111-当初

VC20701 施 工 内 訳 表

施工 第0-0017号内訳表

ポンプ工法積算資料R6年度版 I-36

1 日 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備考・雑材料区分・管理費区分
軽油	26	1	149	3,874	TZJ6702002 0 省略
運転手(一般)	1.0	人	24,786	24,786	RR0115 0 省略
散水車[トラック架装型] 3800L	6.0	時間	2,260	13,560	MMJ1108007 0 省略
諸雑費(まるめ)	1	式		0	#80 0 省略
小計	1	口		42,220	

07-実施-下水-1111-当初

トラック運転工
4t

07年06月20日適用

頁0-0041

タンバー工法積算資料R6年度版 I-39

VSK0302004 施 工 内 訳 表

施工 第0-0018号内訳表

1 日 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備考・雑材料区分・管理費区分
軽油	11	1	149	1,639	TZJ6702002 0 省略
運転手(一般)	0.5	人	24,786	12,393	RR0115 0 省略
トラック[普通型] 4~4.5t積	2.0	時間	1,560	3,120	MMJ0302004 0 省略
諸雑費(まるめ)	1	式		8	#80 0 省略
小計	1	口		17,160	

07-実施-下水-1111-当初

充てん材注入工（ホース牽引方式）
 既設管径：φ 800mm以上2000mm以下
 φ 1100mm
 ダンバー工法積算資料R6年度版 I-37

VC3011

施 工 内 訳 表

施工 第0-0019号内訳表

07年06月20日適用

頁0-0042

38

m 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考 ・ 雑 材 料 区 分 ・ 管 理 費 区 分
充てん材 1 2号 DB2-1	2.14	m3	191,200	409,168	VC30101 施工 第0-0015号内訳表 ダンバー工法積算 0 省略
充てん材 2 2号 DB2-2	2.06	m3	108,000	222,480	VC30102 施工 第0-0016号内訳表 ダンバー工法積算 0 省略
土木一般世話役	1	人	28,560	28,560	RR0125 0 省略
トンネル特殊工	1	人	47,532	47,532	RR0119 0 省略
トンネル作業員	2	人	32,640	65,280	RR0120 0 省略
特殊作業員	2	人	28,152	56,304	RR0101 0 省略
普通作業員	2	人	23,358	46,716	RR0102 0 省略
充てん材注入プラント損料① 高速ミキサー・アジテーター・注入ポンプ・給水ポンプ 見積123,000円/日	1.0	日	123,000	123,000	FDB3001 1 0 省略
注入ホース巻取り機損料 3/4B×2本×120m巻② 巻取速度:0.5～26m/min 1.5kW 見積35,800円/日	1.0	日	35,800	35,800	FDB3002 1 0 省略
注入ホース引込ワイヤ損料 φ3～5 ワイヤ×120m巻③ 巻取速度:5～20m/min 0.75kW 見積763円/日	1.0	日	763	763	FDB3003 1 0 省略
注入ホース損料 先端混合ノズル共	50	%	159,563	79,781	#01 ①～③の50% 0 省略
発動発電機運転工	1.0	日	10,490	10,490	VSK1510030 施工 第0-0004号内訳表 ダンバー工法積算 0 省略

07-実施-下水-1111-当初

充てん材注入工（ホース牽引方式）
既設管径：φ 800mm以上2000mm以下
φ 1100mm
ダンパー工法積算資料R6年度版 I-37

07年06月20日適用

頁0-0043

VC3011

施 工 内 訳 表

施工 第0-0019号内訳表

38

m 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備考・雑材料区分・管理費区分
給水車運転工	1.0	日	42,220	42,220	VC20701 施工 第0-0017号内訳表 ダンパー工法積算 0 省略
クレーン付トラック運転工 4t 2.9t吊	1.0	日	44,600	44,600	VSK0302013 施工 第0-0005号内訳表 ダンパー工法積算 0 省略
トラック運転工 4t	1.0	日	17,160	17,160	VSK0302004 施工 第0-0018号内訳表 ダンパー工法積算 0 省略
諸雑費（まるめ）	1	式		146	#80 0 省略
計	38	m		1,230,000	
小計	1	m		32,368	

07-実施-下水-1111-当初

充てん材注入工（管内注入方式）
 既設管径：φ 800mm以上2000mm以下
 φ 1350mm
 ダンバー工法積算資料R6年度版 I-37

VC3012

施 工 内 訳 表

施工 第0-0020号内訳表

07年06月20日適用

頁0-0044

29 m 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考 ・ 雑 材 料 区 分 ・ 管 理 費 区 分
充てん材 1 2号 DB2-1	3.35	m3	191,200	640,520	VC30101 施工 第0-0015号内訳表 ダンバー工法積算 0 省略
充てん材 2 2号 DB2-2	0.85	m3	108,000	91,800	VC30102 施工 第0-0016号内訳表 ダンバー工法積算 0 省略
土木一般世話役	1	人	28,560	28,560	RR0125 0 省略
トンネル特殊工	1	人	47,532	47,532	RR0119 0 省略
トンネル作業員	3	人	32,640	97,920	RR0120 0 省略
特殊作業員	2	人	28,152	56,304	RR0101 0 省略
普通作業員	2	人	23,358	46,716	RR0102 0 省略
充てん材注入プラント損料① 高速ミキサー・アジテーター・注入ポンプ・給水ポンプ 見積123,000円/日	1.0	口	123,000	123,000	FDB3001 1 0 省略
注入ホース巻取り機損料 3/4B×2本×120m巻② 巻取速度:0.5～26m/min 1.5kW 見積35,800円/日	1.0	日	35,800	35,800	FDB3002 1 0 省略
注入ホース引込ワイヤ損料 φ3～5 ワイヤ×120m巻③ 巻取速度:5～20m/min 0.75kW 見積763円/日	1.0	日	763	763	FDB3003 1 0 省略
注入ホース損料 先端混合ノズル共	50	%	159,563	79,781	#01 ①～③の50% 0 省略
発動発電機運転工	1.0	口	10,490	10,490	VSK1510030 施工 第0-0004号内訳表 ダンバー工法積算 0 省略

07-実施-下水-1111-当初

充てん材注入工（管内注入方式）
既設管径：φ 800mm以上2000mm以下
φ 1350mm
ダンパー工法積算資料R6年度版 I-37

07年06月20日適用

頁0-0045

VC3012

施 工 内 訳 表

施工 第0-0020号内訳表

29

m 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備考・雑材料区分・管理費区分
給水車運転工	1.0	日	42,220	42,220	VC20701 施工 第0-0017号内訳表 ダンパー工法積算 0 省略
クレーン付トラック運転工 4t 2.9t吊	1.0	日	44,600	44,600	VSK0302013 施工 第0-0005号内訳表 ダンパー工法積算 0 省略
トラック運転工 4t	1.0	日	17,160	17,160	VSK0302004 施工 第0-0018号内訳表 ダンパー工法積算 0 省略
諸雑費（まるめ）	1	式		834	#80 0 省略
計	29	m		1,364,000	
小計	1	m		47,034	

07-実施-下水-1111-当初

充てん材注入工（ホース牽引方式）
 既設管径：φ 800mm以上2000mm以下
 φ 1500mm
 ダンバー工法積算資料R6年度版 I-37

VC3013

施 工 内 訳 表

施工 第0-0021号内訳表

07年06月20日適用

頁0-0046

26 m 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考 ・ 雑 材 料 区 分 ・ 管 理 費 区 分
充てん材 1 2号 DB2-1	1.91	m3	191,200	365,192	VC30101 施工 第0-0015号内訳表 ダンバー工法積算 0 省略
充てん材 2 2号 DB2-2	2.29	m3	108,000	247,320	VC30102 施工 第0-0016号内訳表 ダンバー工法積算 0 省略
土木一般世話役	1	人	28,560	28,560	RR0125 0 省略
トンネル特殊工	1	人	47,532	47,532	RR0119 0 省略
トンネル作業員	2	人	32,640	65,280	RR0120 0 省略
特殊作業員	2	人	28,152	56,304	RR0101 0 省略
普通作業員	2	人	23,358	46,716	RR0102 0 省略
充てん材注入プラント損料① 高速ミキサー・アジテーター・注入ポンプ・給水ポンプ 見積123,000円/日	1.0	口	123,000	123,000	FDB3001 1 0 省略
注入ホース巻取り機損料 3/4B×2本×120m巻② 巻取速度:0.5～26m/min 1.5kW 見積35,800円/日	1.0	日	35,800	35,800	FDB3002 1 0 省略
注入ホース引込ワイヤ損料 φ3～5 ワイヤ×120m巻③ 巻取速度:5～20m/min 0.75kW 見積763円/日	1.0	日	763	763	FDB3003 1 0 省略
注入ホース損料 先端混合ノズル共	50	%	159,563	79,781	#01 ①～③の50% 0 省略
発動発電機運転工	1.0	口	10,490	10,490	VSK1510030 施工 第0-0004号内訳表 ダンバー工法積算 0 省略

07-実施-下水-1111-当初

充てん材注入工（ホース牽引方式）
既設管径：φ 800mm以上2000mm以下
φ 1500mm
ダンパー工法積算資料R6年度版 I-37

07年06月20日適用

頁0-0047

VC3013

施 工 内 訳 表

施工 第0-0021号内訳表

26

m 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備考・雑材料区分・管理費区分
給水車運転工	1.0	日	42,220	42,220	VC20701 施工 第0-0017号内訳表 ダンパー工法積算 0 省略
クレーン付トラック運転工 4t 2.9t吊	1.0	日	44,600	44,600	VSK0302013 施工 第0-0005号内訳表 ダンパー工法積算 0 省略
トラック運転工 4t	1.0	日	17,160	17,160	VSK0302004 施工 第0-0018号内訳表 ダンパー工法積算 0 省略
諸雑費（まるめ）	1	式		282	#80 0 省略
計	26	m		1,211,000	
小計	1	m		46,576	

07-実施-下水-1111-当初

施 工 内 訳 表

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備考・雑材料区分・管理費区分
普通作業員	0.15	人	23,358	3,503	RR0102 0 省略
急結モルタル工(配合1:2)	0.004	m3	351,900	1,407	VC30201 施工 第0-0023号内訳表 ダンパー工法積算 0 省略
諸雑費（まるめ）	1	式		0	#80 0 省略
小計	1	箇所		4,910	

07-実施-下水-1111-当初

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備考・雑材料区分・管理費区分
止水セメント	620.0	kg	515	319,300	TZJ2005001 0 省略
コンクリート用骨材 砂(洗い) 荒目	0.48	m3	4,600	2,208	TZJ2104001 0 省略
水(無代)	310.0	kg		0	FDB3007 0 省略
普通作業員	1.3	人	23,358	30,365	RR0102 0 省略
諸雑費(まるめ)	1	式		27	#80 0 省略
小計	1	m3		351,900	

07-実施-下水-1111-当初

VC3021 施 工 内 訳 表

施工 第0-0024号内訳表

1 箇所 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備考・雑材料区分・管理費区分
普通作業員	0.19	人	23,358	4,438	RR0102 0 省略
急結モルタル工(配合1:2)	0.005	m3	351,900	1,759	VC30201 施工 第0-0023号内訳表 ダンパー工法積算 0 省略
諸雑費（まるめ）	1	式		0	#80 0 省略
小計	1	箇所		6,197	

07-実施-下水-1111-当初

VC3022 施 工 内 訳 表

施工 第0-0025号内訳表

1 箇所 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備考・雑材料区分・管理費区分
普通作業員	0.27	人	23,358	6,306	RR0102 0 省略
急結モルタル工(配合1:2)	0.007	m3	351,900	2,463	VC30201 施工 第0-0023号内訳表 ダンパー工法積算 0 省略
諸雑費（まるめ）	1	式		0	#80 0 省略
小計	1	箇所		8,769	

07-実施-下水-1111-当初

施 工 内 訳 表

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備考・雑材料区分・管理費区分
普通作業員	0.23	人	23,358	5,372	RR0102 0 省略
急結モルタル工(配合1:2)	0.006	m3	351,900	2,111	VC30201 施工 第0-0023号内訳表 ダンパー工法積算 0 省略
諸雑費（まるめ）	1	式		0	#80 0 省略
小計	1	箇所		7,483	

07-実施-下水-1111-当初

管内注入口工
既設管径：φ 1000mm以上1200mm以下

07年06月20日適用

頁0-0053

ガンバー工法積算資料R6年度版 I-40

VC30311

施 工 内 訳 表

施工 第0-0027号内訳表

35

箇所 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備考・雑材料区分・管理費区分
ト初特殊工	1.0	人	47,532	47,532	RR0119 1 0 省略
ト初作業員	1.0	人	32,640	32,640	RR0120 1 0 省略
管内注入口プラグ φ 36 見積1,500円/個	35	個	1,500	52,500	FDB3008 0 省略
諸雑費（率+まるめ） 穿孔機・工具等	10	%	80,172	7,928	#71 0 省略
計	35	箇所		140,600	
小計	1	箇所		4,017	

07-実施-下水-1111-当初

管内注入口工
既設管径: φ 1350mm以上1650mm以下

07年06月20日適用

頁0-0054

ガンバー工法積算資料R6年度版 I-40

VC3031

施 工 内 訳 表

施工 第0-0028号内訳表

40

箇所 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備考・雑材料区分・管理費区分
ト初特殊工	1.0	人	47,532	47,532	RR0119 1 0 省略
ト初作業員	1.0	人	32,640	32,640	RR0120 1 0 省略
管内注入口プラグ φ 36 見積1,500円/個	40	個	1,500	60,000	FDB3008 0 省略
諸雑費（率+まるめ） 穿孔機・工具等	10	%	80,172	7,928	#71 0 省略
計	40	箇所		148,100	
小計	1	箇所		3,702	

07-実施-下水-1111-当初

補強鉄筋設置工 既設管径φ1000mm
主鉄筋SD295 D10 9.32kg/m
配力鉄筋SD295 D10 6.72kg/m
見積歩掛

VC201T

施 工 内 訳 表

施工 第0-0029号内訳表

07年06月20日適用

頁0-0055

10 m 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考 ・ 雑 材 料 区 分 ・ 管 理 費 区 分
補強鉄筋 主鉄筋D10 SD295 配力鉄筋D10 SD295	10.0	m	4,189	41,890	VC2001T 施工 第0-0030号内訳表 見積歩掛 0 省略
土木一般世話役	1.0	人	28,560	28,560	RR0125 1 0 省略
トンネル特殊工	1.0	人	47,532	47,532	RR0119 1 0 省略
トンネル作業員	2.0	人	32,640	65,280	RR0120 1 0 省略
普通作業員	2.0	人	23,358	46,716	RR0102 1 0 省略
諸雑費（率+まるめ）労務費の10%	10.0	%	188,088	18,722	#71 0 省略
計	10	m		248,700	
小計	1	m		24,870	

07-実施-下水-1111-当初

補強鉄筋
主鉄筋D10 SD295 配力鉄筋D10 SD295

07年06月20日適用

頁0-0056

VC2001T 施 工 内 訳 表

施工 第0-0030号内訳表

見積歩掛 1 m 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考 ・ 雑材料区分 ・ 管理費区分
鉄筋コンクリート用棒鋼 SD295 D10	0.009	t	111,500	1,003	TZJ1102008 0 省略
鉄筋コンクリート用棒鋼 SD295 D10	0.007	t	111,500	780	TZJ1102008 0 省略
鉄筋加工費 見積150円/kg	16.04	kg	150	2,406	FC201 0 省略
諸雑費（まるめ）	1	式		0	#80 0 省略
小計	1	m		4,189	

07-実施-下水-1111-当初

補強鉄筋設置工 既設管径φ1350mm
主鉄筋SD345 D13 22.94kg/m
配力鉄筋SD345 D13 15.92kg/m
見積歩掛

07年06月20日適用

頁0-0057

VC202T

施 工 内 訳 表

施工 第0-0031号内訳表

10 m 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考 ・ 雑材料区分 ・ 管理費区分
補強鉄筋 主鉄筋D13 SD345 配力鉄筋D13 SD345	10.0	m	10,300	103,000	VC2002T 施工 第0-0032号内訳表 見積歩掛 0 省略
土木一般世話役	1.0	人	28,560	28,560	RR0125 1 0 省略
トンネル特殊工	1.0	人	47,532	47,532	RR0119 1 0 省略
トンネル作業員	3.0	人	32,640	97,920	RR0120 1 0 省略
普通作業員	2.0	人	23,358	46,716	RR0102 1 0 省略
諸雑費（率+まるめ）労務費の10%	10.0	%	220,728	22,072	#71 0 省略
計	10	m		345,800	
小計	1	m		34,580	

07-実施-下水-1111-当初

補強鉄筋
主鉄筋D13 SD345 配力鉄筋D13 SD345
見積歩掛

VC2002T 施 工 内 訳 表

07年06月20日適用
第0-0032号内訳表
1 m 当り
頁0-0058

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考 ・ 雑材料区分 ・ 管理費区分
鉄筋コンクリート用棒鋼 SD345 D13	0.023	t	114,500	2,633	TZJ1102019 0 省略
鉄筋コンクリート用棒鋼 SD345 D13	0.016	t	114,500	1,832	TZJ1102019 0 省略
鉄筋加工費 見積150円/kg	38.86	kg	150	5,829	FC201 0 省略
諸雑費（まるめ）	1	式		6	#80 0 省略
小計	1	m		10,300	

07-実施-下水-1111-当初

VC401 施 工 内 訳 表

施工 第0-0033号内訳表

ダンバー工法積算資料R6年度版 I-41

1 箇所 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備考・雑材料区分・管理費区分
管口処理工	2.1	リットル	6,256	13,137	VC40101 施工 第0-0034号内訳表
諸雑費（まるめ）	1	式		3	ダンバー工法積算 0 省略 #80 0 省略
小計	1	箇所		13,140	
01=2.1 管口仕上げ材量（リットル）					

VC40101 施 工 内 訳 表

施工 第0-0034号内訳表

ガンバー工法積算資料R6年度版 I-41

5 リツ トル 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備考・雑材料区分・管理費区分
管口仕上げ材 耐酸性モルタル 見積521円/リツトル	6.0	リツトル	521	3,126	FDB401 0 省略
特殊作業員	1.0	人	28,152	28,152	RR0101 0 省略
諸雑費（まるめ）	1	式		2	#80 0 省略
計	5	リツトル		31,280	
小計	1	リツトル		6,256	

07-実施-下水-1111-当初

VC401

施 工 内 訳 表

施工 第0-0035号内訳表

ダンバー工法積算資料R6年度版 I-41

1 箇所 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備考・雑材料区分・管理費区分
管口処理工	2.2	リットル	6,256	13,763	VC40101 施工 第0-0034号内訳表
諸雑費（まるめ）	1	式		7	ダンバー工法積算 0 省略 #80 0 省略
小計	1	箇所		13,770	
01=2.2 管口仕上げ材量 (リットル)					

07-実施-下水-1111-当初

VC401 施 工 内 訳 表

施工 第0-0036号内訳表

ダンバー工法積算資料R6年度版 I-41

1 箇所 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備考・雑材料区分・管理費区分
管口処理工	3.4	リットル	6,256	21,270	VC40101 施工 第0-0034号内訳表
諸雑費（まるめ）	1	式		0	ダンバー工法積算 0 省略 #80 0 省略
小計	1	箇所		21,270	
01=3.4 管口仕上げ材量 (リットル)					

07-実施-下水-1111-当初

VC401 施 工 内 訳 表

施工 第0-0037号内訳表

ダンバー工法積算資料R6年度版 I-41

1 箇所 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備考・雑材料区分・管理費区分
管口処理工	2.3	リットル	6,256	14,388	VC40101 施工 第0-0034号内訳表
諸雑費（まるめ）	1	式		2	ダンバー工法積算 0 省略 #80 0 省略
小計	1	箇所		14,390	
01=2.3 管口仕上げ材量（ $\frac{2}{12}$ ）					

07-実施-下水-1111-当初

VC101 施 工 内 訳 表

施工 第0-0038号内訳表

ガンバー工法積算資料R6年度版 I-51

5 箇所 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備考・雑材料区分・管理費区分
エポキシコーキング材	2.0	リットル	3,696	7,392	FDB4001
見積3,696円/リットル					0 省略
特殊作業員	3.0	人	28,152	84,456	RR0101 1
					0 省略
諸雑費（率+まるめ）	10	%	84,456	8,352	#71
					0 省略
計	5	箇所		100,200	
小計	1	箇所		20,040	

07-実施-下水-1111-当初

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備考・雑材料区分・管理費区分
エポキシコーキング材	2.0	リットル	3,696	7,392	FDB4001
見積3,696円/リットル					0 省略
特殊作業員	3.0	人	28,152	84,456	RR0101 1
					0 省略
諸雑費（率+まるめ）	10	%	84,456	8,352	#71
					労務費の10% 0 省略
計	4.2	箇所		100,200	
小計	1	箇所		23,857	

本管止水工（Y字管工法）
本管径800mm～1350mm 既設管径φ1000mm
下水道施設維持管理積算要領2020年版 P135

VKD0040

施 工 内 訳 表

施工 第0-0040号内訳表

07年06月20日適用

頁0-0066

15 m 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備考・雑材料区分・管理費区分
止水工（Y字管工法） 下水道施設維持管理積算要領2020年版 P135	1	日	350,600	350,600	VK0041 施工 第0-0041号内訳表 0 省略
止水材（注入材） 無機系懸濁型 セメント系 見積220円/㎡	1,043	リットル	220	229,460	FK4002 1 0 省略
止水セメント	78.5	kg	515	40,427	TZJ2005001 0 省略
消耗品	10	%	229,460	22,946	#01 0 省略
諸雑費（まるめ）	1	式		67	#80 0 省略
計	15	m		643,500	
小計	1	m		42,900	

07-実施-下水-1111-当初

施 工 内 訳 表

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考 ・ 雑 材 料 区 分 ・ 管 理 費 区 分
特殊作業員	1.00	人	28,152	28,152	RR0101 0 省略
普通作業員	2.00	人	23,358	46,716	RR0102 0 省略
はつり工	1.00	人	30,192	30,192	RR0137 0 省略
左官	1.00	人	30,294	30,294	RR0135 0 省略
補修プラント車運転工 100kW 3t 下水道施設維持管理積算要領2020年版 P129	1.00	口	152,000	152,000	VK4111 施工 第0-0042号内訳表 0 省略
給水車運転工 132kW 4t 下水道施設維持管理積算要領2020年版 P114	1.00	口	58,060	58,060	VK1026 施工 第0-0043号内訳表 0 省略
トラック運転工 98kW 2t 下水道施設維持管理積算要領2020年版 P108	1.00	口	4,682	4,682	VK4006 施工 第0-0044号内訳表 0 省略
電動ハマトリル 穴あけ能力 φ38~40mm	1.00	口	416	416	MMJ2083002 0 省略
諸雑費（まるめ）	1	式		88	#80 0 省略
小計	1	日		350,600	

07-実施-下水-1111-当初

補修プラント車運転工

100kw 3t

下水道施設維持管理積算要領2020年版 P129

VK4111

施 工 内 訳 表

施工 第0-0042号内訳表

07年06月20日適用

頁0-0068

1 日 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備考・雑材料区分・管理費区分
軽油	25.80	1	149	3,844	TZJ6702002 0 省略
土木一般世話役	1	人	28,560	28,560	RR0125 0 省略
特殊作業員	2	人	28,152	56,304	RR0101 0 省略
普通作業員	1	人	23,358	23,358	RR0102 0 省略
補修プラント車損料 100kw 3t 単価・歩掛算出明細書参照	6	時間	6,640	39,840	F2025012 0 省略
諸雑費（まるめ）	1	式		94	#80 0 省略
小計	1	口		152,000	

07-実施-下水-1111-当初

給水車運転工

132kW 4t

下水道施設維持管理積算要領2020年版 P114

VK1026

施 工 内 訳 表

施工 第0-0043号内訳表

07年06月20日適用

頁0-0069

1 日 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備考・雑材料区分・管理費区分
軽油	34.8	1	149	5,185	TZJ6702002 0 省略
運転手(一般)	1	人	24,786	24,786	RR0115 0 省略
給水車損料 132kw 4t 単価・歩掛算出明細書参照	6	時間	4,680	28,080	F2024006 0 省略
諸雑費(まるめ)	1	式		9	#80 0 省略
小計	1	口		58,060	

07-実施-下水-1111-当初

トラック運転工

98kW 2t

下水道施設維持管理積算要領2020年版 P108

VK4006

施 工 内 訳 表

施工 第0-0044号内訳表

07年06月20日適用

頁0-0070

1 日 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備考・雑材料区分・管理費区分
軽油	12.60	1	149	1,877	TZJ6702002 0 省略
トラック[普通型] 2t積	3	時間	935	2,805	MMJ0302002 0 省略
諸雑費（まるめ）	1	式		0	#80 0 省略
小計	1	口		4,682	

07-実施-下水-1111-当初

本管止水工（Y字管工法）
本管径800mm～1350mm 既設管径φ1100mm
下水道施設維持管理積算要領2020年版 P135

VKD0041

施 工 内 訳 表

施工 第0-0045号内訳表

07年06月20日適用

頁0-0071

15 m 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備考・雑材料区分・管理費区分
止水工（Y字管工法） 下水道施設維持管理積算要領2020年版 P135	1	日	350,600	350,600	VK0041 施工 第0-0041号内訳表 0 省略
止水材（注入材） 無機系懸濁型 セメント系 見積220円/㎡	1,021	リットル	220	224,620	FK4002 1 0 省略
止水セメント	78.5	kg	515	40,427	TZJ2005001 0 省略
消耗品	10	%	224,620	22,462	#01 0 省略
諸雑費（まるめ）	1	式		91	#80 0 省略
計	15	m		638,200	
小計	1	m		42,546	

07-実施-下水-1111-当初

本管止水工（Y字管工法）
本管径800mm～1350mm 既設管径φ1350mm
下水道施設維持管理積算要領2020年版 P135

VKD0042

施 工 内 訳 表

施工 第0-0046号内訳表

07年06月20日適用

頁0-0072

15 m 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備考・雑材料区分・管理費区分
止水工（Y字管工法） 下水道施設維持管理積算要領2020年版 P135	1	日	350,600	350,600	VK0041 施工 第0-0041号内訳表 0 省略
止水材（注入材） 無機系懸濁型 セメント系 見積220円/ℓ	980	リットル	220	215,600	FK4002 1 0 省略
止水セメント	78.5	kg	515	40,427	TZJ2005001 0 省略
消耗品	10	%	215,600	21,560	#01 0 省略
諸雑費（まるめ）	1	式		13	#80 0 省略
計	15	m		628,200	
小計	1	m		41,880	

07-実施-下水-1111-当初

本管止水工（Y字管工法）
本管径1500mm以上 既設管径φ1500mm
下水道施設維持管理積算要領2020年版 P135

VKD0043

施 工 内 訳 表

施工 第0-0047号内訳表

07年06月20日適用

頁0-0073

18 m 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備考・雑材料区分・管理費区分
止水工（Y字管工法） 下水道施設維持管理積算要領2020年版 P135	1	日	350,600	350,600	VK0041 施工 第0-0041号内訳表 0 省略
止水材（注入材） 無機系懸濁型 セメント系 見積220円/㎡	1,154	リットル	220	253,880	FK4002 1 0 省略
止水セメント	94.1	kg	515	48,461	TZJ2005001 0 省略
消耗品	10	%	253,880	25,388	#01 0 省略
諸雑費（まるめ）	1	式		71	#80 0 省略
計	18	m		678,400	
小計	1	m		37,688	

07-実施-下水-1111-当初

取付管口止水工（Y字管工法）
管口部 取付管径 φ150mm
下水道施設維持管理積算要領2020年版 P135

VKD00401

施 工 内 訳 表

施工 第0-0048号内訳表

07年06月20日適用

頁0-0074

18 m 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備考・雑材料区分・管理費区分
止水工（Y字管工法） 下水道施設維持管理積算要領2020年版 P135	1	日	350,600	350,600	VK0041 施工 第0-0041号内訳表 0 省略
止水材（注入材） 無機系懸濁型 セメント系 見積220円/㎡	1,432	リットル	220	315,040	FK4002 1 0 省略
止水セメント	56.5	kg	515	29,097	TZJ2005001 0 省略
消耗品	10	%	315,040	31,504	#01 0 省略
諸雑費（まるめ）	1	式		59	#80 0 省略
計	18	m		726,300	
小計	1	m		40,350	

07-実施-下水-1111-当初

VC501

施 工 内 訳 表

施工 第0-0049号内訳表

ダンパー工法積算資料R6年度版 I-42

1 日 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考 ・ 雑 材 料 区 分 ・ 管 理 費 区 分
軸流ファン[軸流式・定風量型] 50/60m3/min	2.0	日	140	280	MMJ1204001 1 0 省略
発動発電機運転工 3kVA	2.0	日	2,624	5,248	VC50101 1 施工 第0-0050号内訳表 ダンパー工法積算 0 省略
諸雑費（率+まるめ） ガス検知器等	12	%	5,528	663	#71 0 省略
小計	1	口		6,191	

07-実施-下水-1111-当初

施 工 内 訳 表

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備考・雑材料区分・管理費区分
ガソリン レギュラー	12	1	159	1,908	TZJ6704001 0 省略
発動発電機[ガソリンエンジン駆動] 3KVA	1.2	日	597	716	TLC1110002 0 省略
諸雑費（まるめ）	1	式		0	#80 0 省略
小計	1	口		2,624	

07-実施-下水-1111-当初

SWB010212 施 工 内 訳 表

施工 第0-0051号内訳表

1 人日 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備考・雑材料区分・管理費区分
交通誘導警備員B	1.000	人	16,626	16,626	RR0804 1 0 省略
諸雑費(まるめ)	1.00	式		4	#80 0 省略
小計	1	人日		16,630	

07-実施-下水-1111-当初

既設管洗浄工
既設管径: φ 1000mm以上 φ 1350mm以下

07年06月20日適用

頁0-0078

VC207

施 工 内 訳 表

施工 第0-0052号内訳表

ガンバー工法積算資料R6年度版 I-35

200 m 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考 ・ 雑 材 料 区 分 ・ 管 理 費 区 分
土木一般世話役	1.0	人	28,560	28,560	RR0125 0 省略
トンネル特殊工	1.0	人	47,532	47,532	RR0119 0 省略
トンネル作業員	1.0	人	32,640	32,640	RR0120 0 省略
普通作業員	1.0	人	23,358	23,358	RR0102 0 省略
高压洗浄機[工事用・モータ駆動] 吐出量30.8ℓ/min 圧力7.8MPa 運転日当たり換算値(無積雪地(c1))	1.0	口	1,960	1,960	FDB2006 建設機械損料表 0 省略
発動発電機運転工	1.0	口	10,490	10,490	VSK1510030 施工 第0-0004号内訳表 ガンバー工法積算 0 省略
給水車運転工	1.0	口	42,220	42,220	VC20701 施工 第0-0017号内訳表 ガンバー工法積算 0 省略
洗浄水 (無代)	5.0	m3		0	FDB2007 0 省略
諸雑費 (まるめ)	1	式		40	#80 0 省略
計	200	m		186,800	
小計	1	m		934	

07-実施-下水-1111-当初

既設管洗浄工
既設管径: φ 1500mm以上 φ 2000mm以下

07年06月20日適用

頁0-0079

VC2071

施 工 内 訳 表

施工 第0-0053号内訳表

ガンバー工法積算資料R6年度版 I-35

150 m 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考 ・ 雑 材 料 区 分 ・ 管 理 費 区 分
土木一般世話役	1.0	人	28,560	28,560	RR0125 0 省略
トンネル特殊工	1.0	人	47,532	47,532	RR0119 0 省略
トンネル作業員	1.0	人	32,640	32,640	RR0120 0 省略
普通作業員	1.0	人	23,358	23,358	RR0102 0 省略
高压洗浄機[工事用・モータ駆動] 吐出量30.8ℓ/min 圧力7.8MPa 運転日当たり換算値(無積雪地(c1))	1.0	口	1,960	1,960	FDB2006 建設機械損料表 0 省略
発動発電機運転工	1.0	口	10,490	10,490	VSK1510030 施工 第0-0004号内訳表 ガンバー工法積算 0 省略
給水車運転工	1.0	口	42,220	42,220	VC20701 施工 第0-0017号内訳表 ガンバー工法積算 0 省略
洗浄水 (無代)	5.0	m3		0	FDB2007 0 省略
諸雑費 (まるめ)	1	式		40	#80 0 省略
計	150	m		186,800	
小計	1	m		1,245	

07-実施-下水-1111-当初

既設管内調査工
既設管径: φ 800mm以上1500mm未満

07年06月20日適用

頁0-0080

VC801

施 工 内 訳 表

施工 第0-0054号内訳表

ダンパー工法積算資料R6年度版 I-48

500 m 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備考・雑材料区分・管理費区分
測量技師 管路調査技師	1.0	人	52,300	52,300	RR0603 0 省略
測量技師補 管路調査助手	1.0	人	41,100	41,100	RR0604 0 省略
普通作業員 管路調査作業員	3.0	人	23,358	70,074	RR0102 0 省略
ライトバン運転工 1500cc	1.0	口	3,241	3,241	VSK2022001 施工 第0-0055号内訳表 ダンパー工法積算 0 省略
諸雑費（まるめ）	1	式		85	#80 0 省略
計	500	m		166,800	
小計	1	m		333	

07-実施-下水-1111-当初

ライトバン運転工
1500cc

07年06月20日適用

頁0-0081

VSK2022001 施 工 内 訳 表

施工 第0-0055号内訳表

ダンパー工法積算資料R6年度版 I-48

1 日 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備考・雑材料区分・管理費区分
ガソリン レギュラー	8.1	l	159	1,287	TZ304010050 0 省略
ライトバン[ガソリンエンジン・二輪駆動] 乗車定員5名 排気量1.5L	3.6	時間	543	1,954	MMJ2022001 0 省略
諸雑費（まるめ）	1	式		0	#80 0 省略
小計	1	口		3,241	

07-実施-下水-1111-当初

既設管内調査工
既設管径: φ 1500mm以上2000mm以下

07年06月20日適用

頁0-0082

ダンバー工法積算資料R6年度版 I-48

VC8011

施 工 内 訳 表

施工 第0-0056号内訳表

600

m 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備考・雑材料区分・管理費区分
測量技師 管路調査技師	1.0	人	52,300	52,300	RR0603 0 省略
測量技師補 管路調査助手	1.0	人	41,100	41,100	RR0604 0 省略
普通作業員 管路調査作業員	3.0	人	23,358	70,074	RR0102 0 省略
ライトバン運転工 1500cc	1.0	口	3,241	3,241	VSK2022001 施工 第0-0055号内訳表 ダンバー工法積算 0 省略
諸雑費（まるめ）	1	式		85	#80 0 省略
計	600	m		166,800	
小計	1	m		278	

07-実施-下水-1111-当初

登録単価一覧表

頁0-0083

コード	名称・規格1・規格2	単位	単価 世代 (0. 4. 8)	単価 世代 (1. 5. 9)	単価 世代 (2. 6)	単価 世代 (3. 7)	特殊集計 集計区分
F00000001	*****ダンバー工法*****						571
FDB1001	ダンバー工法 ストリップ S形 幅255mm 厚12.5mm 新潟市設計単価表 (別冊) P. 16	m	8,390				571
FDB1002	ダンバー工法 SFジョイナー S形 幅35mm 新潟市設計単価表 (別冊) P. 16	m	1,930				571
FDB10011	ダンバー工法 ストリップ L形 幅250mm 厚17.5mm 新潟市設計単価表 (別冊) P. 16	m	10,100				571
FDB10021	ダンバー工法 SFジョイナー L形 幅30mm 新潟市設計単価表 (別冊) P. 16	m	2,130				571
FDB1003	頂部スパーサー M型 厚2.3mm 幅590×長1200mm 見積15,500円/m	m	15,500				571
FDB1004	頂部スパーサー L型 厚2.3mm 幅570×長1200mm 見積16,300円/m	m	16,300				571
FDB1005	底部スパーサー 特殊型 厚さ2.3mm 幅590mm 見積17,000円/m	m	17,000				571
FDB2002	ストリップフィーダー損料 縦型回転方式 見積19,100円/日	日	19,100				571
FDB2003	製管機損料 エア駆動 円形管用 φ1350mm以下 見積45,500円/日	日	45,500				571
FDB20031	製管機損料 エア駆動 円形管用 φ1500mm以上 見積54,000円/日	日	54,000				571
FDB2004	空気圧縮機 吐出量1.4m3/min吐出圧力0.7MPa 可搬式・エンジン駆動・スクリーン型・排出ガス対策型(第1次基準値)運転口当り換算値(無積雪地(c1))	日	1,760				571

07-実施-下水-1111-当初

登録単価一覧表

頁0-0084

コード	名称・規格 1・規格 2	単位	単 価 世代 (0. 4. 8)	単 価 世代 (1. 5. 9)	単 価 世代 (2. 6)	単 価 世代 (3. 7)	特殊集計 集計区分
FDB2008	緊張リング 損料 φ1000mm用 注入口金物共 見積10,500円/式	式	10,500				571
FDB2009	緊張リング 損料 φ1100mm用 注入口金物共 見積11,050円/式	式	11,050				571
FDB2010	緊張リング 損料 φ1350mm用 注入口金物共 見積12,450円/式	式	12,450				571
FDB2011	緊張リング 損料 φ1500mm用 注入口金物共 見積13,250円/式	式	13,250				571
FDB2006	高圧洗浄機[工事用・モータ駆動] 吐出量30.8ℓ/min 圧力7.8MPa 運転口当たり換算値(無積雪地(c1))	日	1,960				571
FDB2007	洗浄水 (無代)	m3	0				571
FDB3001	充てん材注入プラント損料① 高速ミキサー・アジテーター・注入口金物共 見積123,000円/口	日	123,000				571
FDB3002	注入ホース巻取り機損料 3/4B×2本×120m巻② 巻取速度:0.5~26m/min 1.5kW 見積35,800円/口	日	35,800				571
FDB3003	注入ホース引込ウインチ損料 φ3~5 ワイヤ×120m巻③ 巻取速度:5~20m/min 0.75kW 見積763円/日	日	763				571
FDB3004	タンベ工法 混和剤 DB2 混和剤 2号充てん材1 新潟市設計単価表 (別冊) P. 16	kg	190				571
FDB3005	タンベ工法 硬化材 DB2 硬化材 2号充てん材1 新潟市設計単価表 (別冊) P. 16	kg	560				571
FDB3006	タンベ工法 添加剤 DB2 添加剤 2号充てん材2 新潟市設計単価表 (別冊) P. 16	kg	1,920				571

07-実施-下水-1111-当初

登録単価一覧表

頁0-0085

[illegible]

07-实施-下水-1111-当初

単 価 入 力 デ ー タ 一 覧 表 ①

頁0-0086

上 位 コード	上 位 名 称	第 番 号	単 価 コード	単 価 名 称 規 格 1,規 格 2,摘 要 名 称	単 位	金 額
YG000000004	ストリップ管		FDB1001	ダンビ工法 ストリップ S形 幅255mm 厚12.5mm 新潟市設計単価表 (別冊) P.16	m	8,390
YG000000004	ストリップ管		FDB1002	ダンビ工法 SFジョイナー S形 幅35mm 新潟市設計単価表 (別冊) P.16	m	1,930
YG000000004	ストリップ管		FDB10011	ダンビ工法 ストリップ L形 幅250mm 厚17.5mm 新潟市設計単価表 (別冊) P.16	m	10,100
YG000000004	ストリップ管		FDB10021	ダンビ工法 SFジョイナー L形 幅30mm 新潟市設計単価表 (別冊) P.16	m	2,130
VC201	スパー取付工	第0-0001号	FDB1003	頂部スパー M型 厚2.3mm 幅590×長1200mm 見積15,500円/m	m	15,500
VC201	スパー取付工	第0-0001号	FDB1005	底部スパー 特殊型 厚さ2.3mm 幅590mm 見積17,000円/m	m	17,000
VC2011	スパー取付工	第0-0002号	FDB1004	頂部スパー L型 厚2.3mm 幅570×長1200mm 見積16,300円/m	m	16,300
VC202	端部製管工 (人力)	第0-0003号	FDB2002	ストリップ フィッター損料 縦型回転方式 見積19,100円/日	日	19,100
VC2021	端部製管工 (人力)	第0-0006号	FDB2002	ストリップ フィッター損料 縦型回転方式 見積19,100円/日	日	19,100

単 価 入 力 デ ー タ 一 覧 表 ①

頁0-0087

上 位 コード	上 位 名 称	第 番 号	単 価 コード	単 価 名 称 規 格 1, 規 格 2, 摘 要 名 称	単 位	金 額
VC203	製管工	第0-0007号	FDB2003	製管機損料 エア駆動 円形管用 φ1350mm以下 見積45,500円/日	日	45,500
VC203	製管工	第0-0007号	FDB2002	ストリップフィーダー損料 縦型回転方式 見積19,100円/日	日	19,100
VC203	製管工	第0-0007号	FDB2004	空気圧縮機 吐出量1.4m3/min吐出圧力0.7MPa 可搬式・エンジン駆動・スクレ型・排出ガス対策型(第1次基準値)運転日当り換算値(無積雪地(c1)) 建設機械損料表	日	1,760
VC2031	製管工	第0-0008号	FDB2003	製管機損料 エア駆動 円形管用 φ1350mm以下 見積45,500円/日	日	45,500
VC2031	製管工	第0-0008号	FDB2002	ストリップフィーダー損料 縦型回転方式 見積19,100円/日	日	19,100
VC2031	製管工	第0-0008号	FDB2004	空気圧縮機 吐出量1.4m3/min吐出圧力0.7MPa 可搬式・エンジン駆動・スクレ型・排出ガス対策型(第1次基準値)運転日当り換算値(無積雪地(c1)) 建設機械損料表	日	1,760
VC2032	製管工	第0-0009号	FDB20031	製管機損料 エア駆動 円形管用 φ1500mm以上 見積54,000円/日	日	54,000
VC2032	製管工	第0-0009号	FDB2002	ストリップフィーダー損料 縦型回転方式 見積19,100円/日	日	19,100
VC2032	製管工	第0-0009号	FDB2004	空気圧縮機 吐出量1.4m3/min吐出圧力0.7MPa 可搬式・エンジン駆動・スクレ型・排出ガス対策型(第1次基準値)運転日当り換算値(無積雪地(c1)) 建設機械損料表	日	1,760

単 価 入 力 デ ー タ 一 覧 表 ①

頁0-0088

上 位 コード	上 位 名 称	第 番 号	単 価 コード	単 価 名 称 規 格 1, 規 格 2, 摘 要 名 称	単 位	金 額
VC206	端部緊張工	第0-0010号	FDB2008	緊張リング 損料 φ1000mm用 注入口金物共 見積10,500円/式	式	10,500
VC2061	端部緊張工	第0-0011号	FDB2009	緊張リング 損料 φ1100mm用 注入口金物共 見積11,050円/式	式	11,050
VC2062	端部緊張工	第0-0012号	FDB2010	緊張リング 損料 φ1350mm用 注入口金物共 見積12,450円/式	式	12,450
VC2063	端部緊張工	第0-0013号	FDB2011	緊張リング 損料 φ1500mm用 注入口金物共 見積13,250円/式	式	13,250
VC301	充てん材注入工（管内注入方式）	第0-0014号	FDB3004	ダンパー工法 混和剤 DB2 混和剤 2号充てん材1 新潟市設計単価表（別冊）P.16	kg	190
VC301	充てん材注入工（管内注入方式）	第0-0014号	FDB3005	ダンパー工法 硬化材 DB2 硬化材 2号充てん材1 新潟市設計単価表（別冊）P.16	kg	560
VC301	充てん材注入工（管内注入方式）	第0-0014号	FDB3007	水（無代）	kg	0
VC301	充てん材注入工（管内注入方式）	第0-0014号	FDB3006	ダンパー工法 添加剤 DB2 添加剤 2号充てん材2 新潟市設計単価表（別冊）P.16	kg	1,920
VC301	充てん材注入工（管内注入方式）	第0-0014号	FDB3007	水（無代）	kg	0

単 価 入 力 デ ー タ 一 覧 表 ①

頁0-0089

上 位 コード	上 位 名 称	第 番 号	単 価 コード	単 価 名 称 規 格 1,規 格 2,摘 要 名 称	単 位	金 額
VC301	充てん材注入工（管内注入方式）	第0-0014号	FDB3001	充てん材注入プラント損料① 高速ミキサー・アジテーター・注入ポンプ・給水ポンプ 見積123,000円/日	日	123,000
VC301	充てん材注入工（管内注入方式）	第0-0014号	FDB3002	注入ホース巻取り機損料 3/4B×2本×120m巻② 巻取速度:0.5～26m/min 1.5kW 見積35,800円/日	日	35,800
VC301	充てん材注入工（管内注入方式）	第0-0014号	FDB3003	注入ホース引込ウインチ損料 φ3～5 ワイヤ×120m巻③ 巻取速度:5～20m/min 0.75kW 見積763円/日	日	763
VC3011	充てん材注入工（ホース牽引方式）	第0-0019号	FDB3004	ダンパー工法 混和剤 DB2 混和剤 2号充てん材1 新潟市設計単価表（別冊）P.16	kg	190
VC3011	充てん材注入工（ホース牽引方式）	第0-0019号	FDB3005	ダンパー工法 硬化材 DB2 硬化材 2号充てん材1 新潟市設計単価表（別冊）P.16	kg	560
VC3011	充てん材注入工（ホース牽引方式）	第0-0019号	FDB3007	水（無代）	kg	0
VC3011	充てん材注入工（ホース牽引方式）	第0-0019号	FDB3006	ダンパー工法 添加剤 DB2 添加剤 2号充てん材2 新潟市設計単価表（別冊）P.16	kg	1,920
VC3011	充てん材注入工（ホース牽引方式）	第0-0019号	FDB3007	水（無代）	kg	0
VC3011	充てん材注入工（ホース牽引方式）	第0-0019号	FDB3001	充てん材注入プラント損料① 高速ミキサー・アジテーター・注入ポンプ・給水ポンプ 見積123,000円/日	日	123,000

単 価 入 力 デ ー タ 一 覧 表 ①

頁0-0090

上 位 コード	上 位 名 称	第 番 号	単 価 コード	単 価 名 称 規 格 1,規 格 2,摘 要 名 称	単 位	金 額
VC3011	充てん材注入工（ホース牽引方式）	第0-0019号	FDB3002	注入ホース巻取り機損料 3/4B×2本×120m巻② 巻取速度:0.5～26m/min 1.5kW 見積35,800円/日	日	35,800
VC3011	充てん材注入工（ホース牽引方式）	第0-0019号	FDB3003	注入ホース引込ウインチ損料 φ3～5 ワイヤ×120m巻③ 巻取速度:5～20m/min 0.75kW 見積763円/日	日	763
VC3012	充てん材注入工（管内注入方式）	第0-0020号	FDB3004	ダンパー工法 混和剤 DB2 混和剤 2号充てん材1 新潟市設計単価表（別冊）P.16	kg	190
VC3012	充てん材注入工（管内注入方式）	第0-0020号	FDB3005	ダンパー工法 硬化材 DB2 硬化材 2号充てん材1 新潟市設計単価表（別冊）P.16	kg	560
VC3012	充てん材注入工（管内注入方式）	第0-0020号	FDB3007	水（無代）	kg	0
VC3012	充てん材注入工（管内注入方式）	第0-0020号	FDB3006	ダンパー工法 添加剤 DB2 添加剤 2号充てん材2 新潟市設計単価表（別冊）P.16	kg	1,920
VC3012	充てん材注入工（管内注入方式）	第0-0020号	FDB3007	水（無代）	kg	0
VC3012	充てん材注入工（管内注入方式）	第0-0020号	FDB3001	充てん材注入プラント損料① 高速ミキサ・アジテーター・注入ポンプ・給水ポンプ 見積123,000円/日	日	123,000
VC3012	充てん材注入工（管内注入方式）	第0-0020号	FDB3002	注入ホース巻取り機損料 3/4B×2本×120m巻② 巻取速度:0.5～26m/min 1.5kW 見積35,800円/日	日	35,800

単 価 入 力 デ ー タ 一 覧 表 ①

頁0-0091

上 位 コード	上 位 名 称	第 番 号	単 価 コード	単 価 名 称 規 格 1,規 格 2,摘 要 名 称	単 位	金 額
VC3012	充てん材注入工 (管内注入方式)	第0-0020号	FDB3003	注入ホース引込ウインチ損料 φ3~5 ワイヤ×120m巻③ 巻取速度:5~20m/min 0.75kW 見積763円/日	日	763
VC3013	充てん材注入工 (ホース牽引方式)	第0-0021号	FDB3004	ダンパー工法 混和剤 DB2 混和剤 2号充てん材1 新潟市設計単価表 (別冊) P.16	kg	190
VC3013	充てん材注入工 (ホース牽引方式)	第0-0021号	FDB3005	ダンパー工法 硬化材 DB2 硬化材 2号充てん材1 新潟市設計単価表 (別冊) P.16	kg	560
VC3013	充てん材注入工 (ホース牽引方式)	第0-0021号	FDB3007	水 (無代)	kg	0
VC3013	充てん材注入工 (ホース牽引方式)	第0-0021号	FDB3006	ダンパー工法 添加剤 DB2 添加剤 2号充てん材2 新潟市設計単価表 (別冊) P.16	kg	1,920
VC3013	充てん材注入工 (ホース牽引方式)	第0-0021号	FDB3007	水 (無代)	kg	0
VC3013	充てん材注入工 (ホース牽引方式)	第0-0021号	FDB3001	充てん材注入プラント損料① 高速ミキサー・アジテーター・注入ポンプ・給水ポンプ 見積123,000円/日	口	123,000
VC3013	充てん材注入工 (ホース牽引方式)	第0-0021号	FDB3002	注入ホース巻取り機損料 3/4B×2本×120m巻② 巻取速度:0.5~26m/min 1.5kW 見積35,800円/日	日	35,800
VC3013	充てん材注入工 (ホース牽引方式)	第0-0021号	FDB3003	注入ホース引込ウインチ損料 φ3~5 ワイヤ×120m巻③ 巻取速度:5~20m/min 0.75kW 見積763円/日	日	763

単 価 入 力 デ ー タ 一 覧 表 ①

頁0-0092

上 位 コード	上 位 名 称	第 番 号	単 価 コード	単 価 名 称 規 格 1,規 格 2,摘 要 名 称	単 位	金 額
VC302	充てん材ストップ工	第0-0022号	FDB3007	水（無代）	kg	0
VC3021	充てん材ストップ工	第0-0024号	FDB3007	水（無代）	kg	0
VC3022	充てん材ストップ工	第0-0025号	FDB3007	水（無代）	kg	0
VC3023	充てん材ストップ工	第0-0026号	FDB3007	水（無代）	kg	0
VC30311	管内注入口工	第0-0027号	FDB3008	管内注入口プラグ φ 36 見積1,500円/個	個	1,500
VC3031	管内注入口工	第0-0028号	FDB3008	管内注入口プラグ φ 36 見積1,500円/個	個	1,500
VC201T	補強鉄筋設置工 既設管径 φ 1000mm	第0-0029号	FC201	鉄筋加工費 見積150円/kg	kg	150
VC202T	補強鉄筋設置工 既設管径 φ 1350mm	第0-0031号	FC201	鉄筋加工費 見積150円/kg	kg	150
VC401	管口仕上工（本管）	第0-0033号	FDB401	管口仕上げ材 耐酸性モルタル 見積521円/㎡	㎡	521

単 価 入 力 デ ー タ 一 覧 表 ①

頁0-0093

上 位 コード	上 位 名 称	第 番 号	単 価 コード	単 価 名 称 規 格 1, 規 格 2, 摘 要 名 称	単 位	金 額
VC401	管口仕上工 (本管)	第0-0035号	FDB401	管口仕上げ材 耐酸性モルタル 見積521円/㎡	㎡	521
VC401	管口仕上工 (本管)	第0-0036号	FDB401	管口仕上げ材 耐酸性モルタル 見積521円/㎡	㎡	521
VC401	管口仕上工 (本管)	第0-0037号	FDB401	管口仕上げ材 耐酸性モルタル 見積521円/㎡	㎡	521
VC101	管口仕上工 (取付管)	第0-0038号	FDB4001	エポキシコーキング材 見積3,696円/㎡	㎡	3,696
VC1011	管口仕上工 (取付管)	第0-0039号	FDB4001	エポキシコーキング材 見積3,696円/㎡	㎡	3,696
VKD0040	本管止水工 (Y字管工法)	第0-0040号	F2025012	補修プラント車損料 100kw 3t 単価・歩掛算出明細書参照	時間	6,640
VKD0040	本管止水工 (Y字管工法)	第0-0040号	F2024006	給水車損料 132kw 4t 単価・歩掛算出明細書参照	時間	4,680
VKD0040	本管止水工 (Y字管工法)	第0-0040号	FK4002	止水材 (注入材) 無機系懸濁型 セメント系 見積220円/㎡	㎡	220
VKD0041	本管止水工 (Y字管工法)	第0-0045号	F2025012	補修プラント車損料 100kw 3t 単価・歩掛算出明細書参照	時間	6,640

単 価 入 力 デ ー タ 一 覧 表 ①

頁0-0094

上 位 コード	上 位 名 称	第 番 号	単 価 コード	単 価 名 称 規 格 1, 規 格 2, 摘 要 名 称	単 位	金 額
VKD0041	本管止水工 (Y字管工法)	第0-0045号	F2024006	給水車損料 132kw 4t 単価・歩掛算出明細書参照	時間	4,680
VKD0041	本管止水工 (Y字管工法)	第0-0045号	FK4002	止水材 (注入材) 無機系懸濁型 セメント系 見積220円/㎡	㎡	220
VKD0042	本管止水工 (Y字管工法)	第0-0046号	F2025012	補修プラント車損料 100kw 3t 単価・歩掛算出明細書参照	時間	6,640
VKD0042	本管止水工 (Y字管工法)	第0-0046号	F2024006	給水車損料 132kw 4t 単価・歩掛算出明細書参照	時間	4,680
VKD0042	本管止水工 (Y字管工法)	第0-0046号	FK4002	止水材 (注入材) 無機系懸濁型 セメント系 見積220円/㎡	㎡	220
VKD0043	本管止水工 (Y字管工法)	第0-0047号	F2025012	補修プラント車損料 100kw 3t 単価・歩掛算出明細書参照	時間	6,640
VKD0043	本管止水工 (Y字管工法)	第0-0047号	F2024006	給水車損料 132kw 4t 単価・歩掛算出明細書参照	時間	4,680
VKD0043	本管止水工 (Y字管工法)	第0-0047号	FK4002	止水材 (注入材) 無機系懸濁型 セメント系 見積220円/㎡	㎡	220
VKD00401	取付管口止水工 (Y字管工法)	第0-0048号	F2025012	補修プラント車損料 100kw 3t 単価・歩掛算出明細書参照	時間	6,640

単 価 入 力 デ ー タ 一 覧 表 ①

頁0-0095

上 位 コード	上 位 名 称	第 番 号	単 価 コード	単 価 名 称 規 格 1,規 格 2,摘 要 名 称	単 位	金 額
VKD00401	取付管口止水工 (Y字管工法)	第0-0048号	F2024006	給水車損料 132kw 4t 単価・歩掛算出明細書参照	時間	4,680
VKD00401	取付管口止水工 (Y字管工法)	第0-0048号	FK4002	止水材 (注入材) 無機系懸濁型 セメント系 見積220円/㎡	㎡	220
VC207	既設管洗浄工	第0-0052号	FDB2006	高压洗浄機[工事用・モータ駆動] 吐出量30.8ℓ/min 圧力7.8MPa 運転日当たり換算値(無積雪地(c1)) 建設機械損料表	日	1,960
VC207	既設管洗浄工	第0-0052号	FDB2007	洗浄水 (無代)	m3	0
VC2071	既設管洗浄工	第0-0053号	FDB2006	高压洗浄機[工事用・モータ駆動] 吐出量30.8ℓ/min 圧力7.8MPa 運転日当たり換算値(無積雪地(c1)) 建設機械損料表	日	1,960
VC2071	既設管洗浄工	第0-0053号	FDB2007	洗浄水 (無代)	m3	0

複合管数量集計表(補助)

名 称		規 格	K12路線 [156-19]	K13-1路線 [157-20]	K14路線 [158-21]	K15路線 [159-22]	K24-1路線 [160-23]	K40路線 [161-24]	K41路線 [162-25]	設計数量	単 位	備 考
設計条件		既設管径	φ1000	φ1000	φ1100	φ1100	φ1350	φ1500	φ1500		mm	
		更生管径	縦935横935	縦935横935	縦980横1075	縦980横1075	縦1273横1273	縦1382.5横1465	縦1382.5横1465		mm	
		路線延長	54.00	66.90	53.80	39.45	69.95	60.90	31.50	376.50	m	
		更生管延長	52.50	65.40	52.30	37.95	68.15	58.80	29.40	364.50	m	
昼夜区分			昼間施工	昼間施工	昼間施工	昼間施工	昼間施工	昼間施工	昼間施工			
誘導員配置人数			4人配置	4人配置	4人配置	4人配置	4人配置	4人配置	4人配置			
直接工事費												
管渠更生工（複合管）												
材料費	設計条件		補強鉄筋	補強鉄筋	底部スパーサーあり	底部スパーサーあり	補強鉄筋	標準	標準			
	更生材料(標準ストリップ)	S 形	546.00	678.87	596.75	434.60	954.37			3210.59	m	
	更生材料(SFジョイナー)	S 形	546.00	678.87	596.75	434.60	954.37			3210.59	m	
	更生材料(標準ストリップ)	L 形						960.66	484.38	1445.04	m	
製管工	更生材料(SFジョイナー)	L 形						960.66	484.38	1445.04	m	
	スパーサー取付工	M型（頂部、底部）			52.3	38.0				90.25	m	
	スパーサー取付工	L型（頂部）						58.8	29.4	88.20	m	
	端部製管工	管径1200mm以下	1.50	1.50	1.50	1.50				6.0	m	
製管工	端部製管工	管径1350以上1500以下					1.50	1.50	1.50	4.5	m	
	製管工（直線区間）	管径1000以上1200以下	51.00	63.90	50.80	36.45				202.15	m	
	製管工（直線区間）	管径1350mm					66.65			66.65	m	
	製管工（直線区間）	管径1500mm						57.30	27.90	85.20	m	
	製管工（曲線区間）											
	端部緊張工	管径1000mm	2	2						4.0	箇所	
	端部緊張工	管径1100mm			2	2				4.0	箇所	
	端部緊張工	管径1350mm					2			2.0	箇所	
	端部緊張工	管径1500mm						2	2	4.0	箇所	
充てん材注入工	充てん材注入工（管内注入方式）	管径1000mm										
	充てん材注入工（ホース牽引方式）	管径1100mm			52.30	37.95				117.90	m	
	充てん材注入工（管内注入方式）	管径1350mm					68.15			90.25	m	
	充てん材注入工（ホース牽引方式）	管径1500mm						58.80	29.40	68.15	m	
	充てん材ストッパー工	1箇所当り急結モルタル量0.004m3	2	2						4.5	m	
	充てん材ストッパー工	1箇所当り急結モルタル量0.005m3			2	2				88.20	m	
	充てん材ストッパー工	1箇所当り急結モルタル量0.007m3					2			4.0	箇所	
	充てん材ストッパー工	1箇所当り急結モルタル量0.007m3								2.0	箇所	
	充てん材ストッパー工	1箇所当り急結モルタル量0.006m3						2	2	2.0	箇所	
	管内注入口工	管径1000以上1200以下	43	53						4.0	箇所	
補強鉄筋設置工	管内注入口工	管径1350以上1650以下					55			96.0	箇所	
	補強鉄筋設置工	管径1000mm	52.50	65.40						55.0	箇所	
	補強鉄筋設置工	管径1350mm					68.15			117.90	m	
	補強鉄筋設置工									68.15	m	
管口仕上工	管口仕上工	管口処理材 2.1 ㍔/箇所	2	2								
	管口仕上工	管口処理材 2.2 ㍔/箇所			2	2				4.0	箇所	
	管口仕上工	管口処理剤 3.4 ㍔/箇所					2			4.0	箇所	
	管口仕上工	(標準) 管口処理剤 2.3 ㍔/箇所						2	2	2.0	箇所	
取付管工	取付管工	管径1500mm								4.0	箇所	
	取付管口仕上工	200mm以下	12	20	16	6	1	4	2	61	箇所	
止水工	取付管口仕上工	250mm	0	1	0	0	0			1	箇所	
	止水工											
止水工	止水工	本管Y字管注入工	15.7	12.6						28.3	m	
	止水工	管径1000mm			17.3	3.5				20.8	m	
	止水工	本管Y字管注入工					17.0	51.8		68.8	m	
	止水工	管径1350mm							28.3	28.3	m	
止水工	止水工	本管Y字管注入工										
	止水工	管径1500mm										
換気工	換気工	取付管管口注入工	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0	0.5	m	
	換気設備工											
換気工	換気設備工									78.0	日	算定表より
	換気設備工											
交通管理工	交通管理工											
	交通誘導警備員	5人/日（交代要員有）								405.0	人日	
準備費												
前処理工												
既設管洗浄・調査工	既設管洗浄・調査工											
	既設管洗浄工	管径1000以上1350以下	52.50	65.40	52.30	37.95	68.15			276.30	m	
	既設管洗浄工	管径1500以上2000以下						58.80	29.40	88.20	m	
	既設管調査工	管径800以上1500未満	52.50	65.40	52.30	37.95	68.15			276.30	m	
既設管調査工	既設管調査工	管径1500以上2000以下						58.80	29.40	88.20	m	
	既設管調査工											
換気工	換気工											
	換気設備工									3.0	日	算定表より

ダンピー工法数量計算書

既設管

内径	1000.00	mm
----	---------	----

路線

製管延長

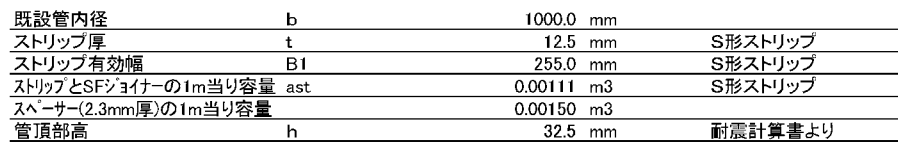
① 156-19路線	52.50	m
②		m
③		m
④		m
⑤		m
計	52.50	m

更生概要

スパン数	1.0	スパン
充てん材ストッパー箇所数	2.0	箇所
管口仕上げ箇所数	2.0	箇所
取付管口仕上げ工 φ200以下	12.0	箇所 (平面図より)
取付管口仕上げ工 φ250以下	0.0	箇所 (平面図より)
中間注入口数		箇所
管内注入口数	43.0	箇所

工種

ストリップ管			
標準ストリップ管	ストリップ	S形	546.000 m I-23
	SFジョイナー	S形	546.000 m I-24
製管工			
スペーサー取付工	スペーサー	S形	m
補強鉄筋工			52.500 m (見積歩掛)
端部製管工	管径1000以上1200mm以下	1.500	m I-24
製管工 直線区間	管径1000以上1200mm以下	51.000	m I-30
製管工 曲線・段差区間		m	
目地工		m	
端部緊張工	管径800以上2000mm以下	2.0	箇所 I-34
既設管洗浄工	管径1000以上1350mm以下	52.500	m I-35
充てん材注入工	管径1000mm	52.500	m I-37
充てん材ストッパー量(1箇所当り)	管径1000mm	0.004	m ³ I-39
普通作業員		0.15	人 "
管内注入口工	管径1000以上1200mm以下	43.0	箇所 I-40
管口仕上げ工	管径1000mm	2.0	箇所 I-41
管口コーキング量(1箇所当り)		2.1	ℓ "



内周半径

$$a' = \frac{\text{既設管内径}}{2} - \text{管底部高} = \frac{1000.0}{2} - 32.5 = 467.5 \text{ mm}$$

※補強鉄筋の場合、頂部と同数

図心半径

更生管上部(下部)図心半径

$$b = b' + \frac{t}{2} = 467.5 + \frac{12.5}{2} = 473.75 \text{ mm}$$

更生管横部図心半径

$$c = c' + \frac{t}{2} = 467.5 + \frac{12.5}{2} = 473.75 \text{ mm}$$

更生管下部図心半径

$$a = a' + \frac{t}{2} = 467.5 + \frac{12.5}{2} = 473.75 \text{ mm}$$

周長

上半分周長

$$L_1 = \pi \sqrt{\frac{c^2}{2} + \frac{b^2}{2}} = \pi \sqrt{\frac{473.75^2}{2} + \frac{473.75^2}{2}} = 1488.3 \text{ mm}$$

下半分周長

$$L_2 = \pi \sqrt{\frac{c^2}{2} + \frac{a^2}{2}} = \pi \sqrt{\frac{473.75^2}{2} + \frac{473.75^2}{2}} = 1488.3 \text{ mm}$$

よって、ストリップ長は

$$L = L_1 + L_2 = 1488.3 + 1488.3 = 2.977 \text{ m/巻}$$

ストリップ使用量

1mあたりのストリップ使用量(L×1000/B1+B2)は

$$\frac{L}{290.0} \times 1000 = \frac{2.977}{290.0} \times 1000 = 10.3 \text{ m/m (ダンビー工法積算資料 I-12)}$$

巻立延長は 53.01m であるのでストリップ使用量は

$$\text{ストリップ使用量} \times \text{巻立延長} = 10.3 \times 53.01 = 546.00 \text{ m}$$

※ ダンビー工法積算資料 I-10より

$$\begin{aligned} \text{巻立延長} &= \text{管きよ延長} + (\text{ストリップ有効幅}(B1) \times 2) \\ &= 52.50 + 0.255 \times 2 \\ &= 53.01 \text{ m} \end{aligned}$$

ジョイナー使用量は、ストリップ使用量と同量である。

補強鉄筋重量

$$L = \text{更生延長} = 52.50 \text{ m}$$

$$\text{主筋 D10} \quad 0.56 \times (1.387 \times 3 \times 4) = 9.32 \text{ kg/m}$$

$$\text{配力筋 D10} \quad 0.56 \times 1.00 \times 12 = 6.72 \text{ kg/m}$$

$$\text{合計} = 16.04 \text{ kg/m}$$

$$\text{補強筋控除} \quad 16.04 \div 7850 = 0.002 \text{ m}^3/\text{m}$$

充てん材注入量

既設管内空面積

$$A_1 = \frac{\pi d^2}{4} = \frac{\pi \times 1000^2}{4} = 785398.2 \text{ mm}^2 = 0.785 \text{ m}^2$$

更生管内空面積

上部

$$A_2 = \frac{\pi c' b'}{2} = \frac{\pi \times 467.5 \times 467.5}{2} = 343307.4 \text{ mm}^2$$

下部

$$A_3 = \frac{\pi c' a'}{2} = \frac{\pi \times 467.5 \times 467.5}{2} = 343307.4 \text{ mm}^2$$

合計

$$A = A_2 + A_3 = 343307.4 + 343307.4 = 0.687 \text{ m}^2$$

ストリップ管容積

$$A_{st} = a_{st} \times L = 0.00111 \text{ m}^3 \times 10.3 \text{ m} = 0.011 \text{ m}^3/\text{m}$$

a_{st} : 材料1mあたりのストリップ容積(ダンビー工法積算資料 I-13)
 L : 更生1mあたりのストリップ長

1m当たり充てん材注入量

$$\begin{aligned}
 V &= [A_1 - (A_2 + A_3)] \times 1\text{m} - \text{ストリップ管容量(ストリップ容量+SFジョイナー)} - \text{鋼材容量(スペーサー容量+補強材容量)} \\
 &= (0.785 - 0.687) \times 1 - 0.011 - 0.002 \\
 &= 0.085 \text{ m}^3/\text{m}
 \end{aligned}$$

充てん材2注入量

別添材料計算書のとおり、CAD計測による。

$$\begin{aligned} \text{充てん材2(CAD)} &= 0.022 \quad \text{m}^3/\text{m} \\ \text{控除ストリップ長(CAD)} &= 0.647 \quad \text{m} \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \text{1mあたり充てん材2注入量(V2)} \\ &= \text{充てん材2} - \text{ストリップ管容量} \\ &= 0.022 - (0.647 \div 0.29 \times 0.00111) \\ V2 &= 0.020 \quad \text{m}^3/\text{m} \end{aligned}$$

充てん材1注入量

$$\begin{aligned} V1 &= \text{1m当り充てん材注入量}-\text{充てん材2} \quad (\text{ダンビー工法積算資料 I-13}) \\ &= 0.085 - 0.020 \\ &= 0.065 \quad \text{m}^3/\text{m} \end{aligned}$$

1日当り注入量

1日当り総注入量

$$V = 4.20 \quad \text{m}^3/\text{日}$$

充てん材1注入量 (ダンビー工法積算資料 I-37)

$$\begin{aligned} V1 &= \text{1日当たりの充てん材量} \times \frac{\text{1m当りの充てん材1量}}{\text{1m当りの充てん材注入量(計)}} \\ &= 4.20 \times \frac{0.065}{0.085} \\ &= 3.21 \quad \text{m}^3/\text{日} \quad \text{※小数第3位四捨五入} \end{aligned}$$

充てん材2注入量 (ダンビー工法積算資料 I-37)

$$\begin{aligned} V2 &= \text{1日当たりの充てん材量} \times \frac{\text{1m当りの充てん材2量}}{\text{1m当りの充てん材注入量(計)}} \\ &= 4.20 \times \frac{0.020}{0.085} \\ &= 0.99 \quad \text{m}^3 \quad \text{※小数第3位四捨五入} \end{aligned}$$

1日あたり充てん材注入延長

$$\begin{aligned} &= \text{1日当り充てん材注入量}(4.0\text{m}^3/\text{日})/\text{1m当り充てん材注入量}(\text{m}^3/\text{m}) \\ &= 4 \div 0.085 = 48 \quad \text{m/日} \end{aligned}$$

充てん材ストッパー量

補強が必要な場合の充てん材ストッパー量は
ダンビー工法積算資料I-39ページ「充てん材ストッパー工(C-3-2)」備考2より求める。

$$\begin{aligned} \text{1箇所当り急結モルタル量(a)} &= \text{1m当り充てん材注入量}(\text{m}^3/\text{m}) \times 0.05(\text{m}) \\ &= 0.004 \quad \text{m}^3 \quad \text{※小数第4位四捨五入} \\ \text{普通作業員} &= (a) \times 38 \quad (\text{人}/\text{m}^3) = 0.15 \quad \text{人} \quad \text{※小数第3位四捨五入} \end{aligned}$$

管内注入口工

ダンビー工法積算資料Ⅰ-40ページ「管内注入口工(C-3-3)」注入区間が100mを超える場合や注入ホースの引き込みが不可能な場合(補強鉄筋等)は、管内より注入を行うための注入口の穿孔を行う。

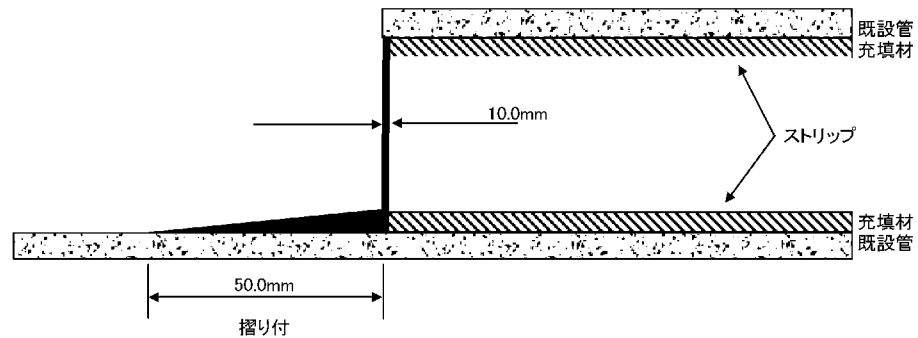
管内注入口は、左右2箇所3m以内毎、および管頂部1箇所7m以内毎に設ける。

$$\begin{aligned} N1 &= 52.50 \div 3 = 18 \text{ 個(切上げ)} & 18 \times 2 &= 36 \text{ 個} \\ N2 &= 52.50 \div 7 = 7 \text{ 個(切下げ)} & & \text{計 } 43 \text{ 個} \end{aligned}$$

注入終了後、注入口を管内注入口プラグにて閉塞する。

管口仕上げ工

人孔側壁と更生管の管口をエポキシ系コーキング材で仕上げる。



補強が必要な場合のエポキシコーキング量は
ダンビー工法積算資料Ⅰ-41ページ「管口仕上工(C-4-1)」備考2より求める。

①管口下半面をすりつける場合
1箇所当り管口仕上材資料量(ℓ)

$$\begin{aligned} &= \{ 1\text{m当り充てん材注入量} \times 0.01 + (\text{既設管下半分内空断面} - \text{更生管下半分内空面積}) \times 0.05 / 2 \} \times 1000 \\ &= \{ 0.085 \times 0.01 + (0.393 - 0.343) \times 0.05 / 2 \} \times 1000 \\ &= 2.1 \quad \ell/\text{箇所} \end{aligned}$$

ダンピー工法数量計算書

既設管

内径	1000.00	mm
----	---------	----

路線

製管延長

① 157-20路線	65.40	m
②		m
③		m
④		m
⑤		m
計	65.40	m

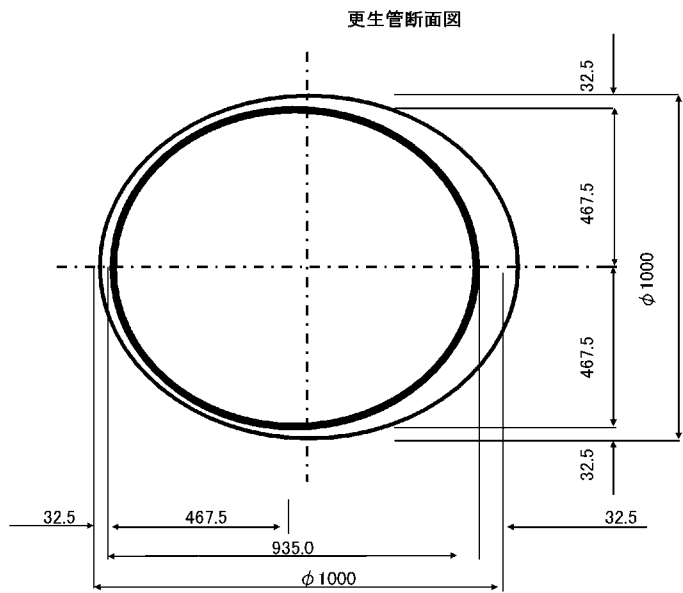
更生概要

スパン数	1.0	スパン
充てん材ストッパー箇所数	2.0	箇所
管口仕上げ箇所数	2.0	箇所
取付管口仕上げ工 φ200以下	20.0	箇所 (平面図より)
取付管口仕上げ工 φ250以下	1.0	箇所 (平面図より)
中間注入口数		箇所
管内注入口数	53.0	箇所

工種

ストリップ管			
標準ストリップ管	ストリップ	S形	678.870 m I-23
	SFジョイナー	S形	678.870 m I-24
製管工			
スペーサー取付工	スペーサー	S形	m
補強鉄筋工			65.400 m (見積歩掛)
端部製管工	管径1000以上1200mm以下	1.500	m I-24
製管工 直線区間	管径1000以上1200mm以下	63.900	m I-30
製管工 曲線・段差区間			m
目地工			m
端部緊張工	管径800以上2000mm以下	2.0	箇所 I-34
既設管洗浄工	管径1000以上1350mm以下	65.400	m I-35
充てん材注入工	管径1000mm	65.400	m I-37
充てん材ストッパー量(1箇所当り)	管径1000mm	0.004	m ³ I-39
普通作業員		0.15	人 "
管内注入口工	管径1000以上1200mm以下	53.0	箇所 I-40
管口仕上げ工	管径1000mm	2.0	箇所 I-41
管口コーキング量(1箇所当り)		2.1	ℓ "

ストリップ管



既設管内径	b	1000.0	mm
ストリップ厚	t	12.5	mm S形ストリップ
ストリップ有効幅	B1	255.0	mm S形ストリップ
ストリップとSFジョイナーの1m当り容量	ast	0.00111	m3 S形ストリップ
スパーサー(2.3mm厚)の1m当り容量		0.00150	m3
管頂部高	h	32.5	mm 耐震計算書より

ストリップ使用量

内周半径

更生管上部(下部)内半径

$$b' = \frac{\text{既設管内径}}{2} - \text{管頂部高} = \frac{1000.0}{2} - 32.5 = 467.5 \text{ mm}$$

更生管横部内半径

$$c' = \frac{\text{既設管内径}}{2} - \text{管側部高} = \frac{1000.0}{2} - 32.5 = 467.5 \text{ mm}$$

※補強鉄筋の場合、頂部と同数

更生管下部内半径

$$a' = \frac{\text{既設管内径}}{2} - \text{管底部高} = \frac{1000.0}{2} - 32.5 = 467.5 \text{ mm}$$

図心半径

更生管上部(下部)図心半径

$$b = b' + \frac{t}{2} = 467.5 + \frac{12.5}{2} = 473.75 \text{ mm}$$

更生管横部図心半径

$$c = c' + \frac{t}{2} = 467.5 + \frac{12.5}{2} = 473.75 \text{ mm}$$

更生管下部図心半径

$$a = a' + \frac{t}{2} = 467.5 + \frac{12.5}{2} = 473.75 \text{ mm}$$

周長

上半分周長

$$L_1 = \pi \sqrt{\frac{c^2}{2} + \frac{b^2}{2}} = \pi \sqrt{\frac{473.75^2}{2} + \frac{473.75^2}{2}} = 1488.3 \text{ mm}$$

下半分周長

$$L_2 = \pi \sqrt{\frac{c^2}{2} + \frac{a^2}{2}} = \pi \sqrt{\frac{473.75^2}{2} + \frac{473.75^2}{2}} = 1488.3 \text{ mm}$$

よって、ストリップ長は

$$L = L_1 + L_2 = 1488.3 + 1488.3 = 2.977 \text{ m/巻}$$

ストリップ使用量

1mあたりのストリップ使用量(L×1000/B1+B2)は

$$\frac{L}{290.0} \times 1000 = \frac{2.977}{290.0} \times 1000 = 10.3 \text{ m/m (ダンビー工法積算資料 I-12)}$$

巻立延長は 65.91m であるのでストリップ使用量は

$$\text{ストリップ使用量} \times \text{巻立延長} = 10.3 \times 65.91 = 678.87 \text{ m}$$

※ ダンビー工法積算資料 I-10より

$$\begin{aligned} \text{巻立延長} &= \text{管きよ延長} + (\text{ストリップ有効幅}(B1) \times 2) \\ &= 65.40 + 0.255 \times 2 \\ &= 65.91 \text{ m} \end{aligned}$$

ジョイナー使用量は、ストリップ使用量と同量である。

補強鉄筋重量

$$L = \text{更生延長} = 65.40 \text{ m}$$

$$\text{主筋 D10} \quad 0.56 \times (1.387 \times 3 \times 4) = 9.32 \text{ kg/m}$$

$$\text{配力筋 D10} \quad 0.56 \times 1.00 \times 12 = 6.72 \text{ kg/m}$$

$$\text{合計} = 16.04 \text{ kg/m}$$

$$\text{補強筋控除} \quad 16.04 \div 7850 = 0.002 \text{ m}^3/\text{m}$$

充てん材注入量

既設管内空面積

$$A_1 = \frac{\pi d^2}{4} = \frac{\pi \times 1000^2}{4} = 785398.2 \text{ mm}^2 = 0.785 \text{ m}^2$$

更生管内空面積

上部

$$A_2 = \frac{\pi c' b'}{2} = \frac{\pi \times 467.5 \times 467.5}{2} = 343307.4 \text{ mm}^2$$

下部

$$A_3 = \frac{\pi c' a'}{2} = \frac{\pi \times 467.5 \times 467.5}{2} = 343307.4 \text{ mm}^2$$

合計

$$A = A_2 + A_3 = 343307.4 + 343307.4 = 0.687 \text{ m}^2$$

ストリップ管容積

$$A_{st} = a_{st} \times L = 0.00111 \text{ m}^3 \times 10.3 \text{ m} = 0.011 \text{ m}^3/\text{m}$$

a_{st} : 材料1mあたりのストリップ容積(ダンビー工法積算資料 I-13)
 L : 更生1mあたりのストリップ長

1m当たり充てん材注入量

$$\begin{aligned} V &= [A_1 - (A_2 + A_3)] \times 1\text{m} - \text{ストリップ管容量(ストリップ容量+SFジョイナー)} - \text{鋼材容量(スペーサー容量+補強材容量)} \\ &= (0.785 - 0.687) \times 1 - 0.011 - 0.002 \\ &= 0.085 \text{ m}^3/\text{m} \end{aligned}$$

充てん材2注入量

別添材料計算書のとおり、CAD計測による。

$$\begin{aligned}\text{充てん材2(CAD)} &= 0.022 \quad \text{m}^3/\text{m} \\ \text{控除ストリップ長(CAD)} &= 0.647 \quad \text{m}\end{aligned}$$

$$\begin{aligned}\text{1mあたり充てん材2注入量(V2)} \\ &= \text{充てん材2} - \text{ストリップ管容量} \\ &= 0.022 - (0.647 \div 0.29 \times 0.00111) \\ V2 &= 0.020 \quad \text{m}^3/\text{m}\end{aligned}$$

充てん材1注入量

$$\begin{aligned}V1 &= \text{1m当り充てん材注入量}-\text{充てん材2} \quad (\text{ダンビー工法積算資料 I-13}) \\ &= 0.085 - 0.020 \\ &= 0.065 \quad \text{m}^3/\text{m}\end{aligned}$$

1日当り注入量

1日当り総注入量

$$V = 4.20 \quad \text{m}^3/\text{日}$$

充てん材1注入量 (ダンビー工法積算資料 I-37)

$$\begin{aligned}V1 &= \text{1日当たりの充てん材量} \times \frac{\text{1m当りの充てん材1量}}{\text{1m当りの充てん材注入量(計)}} \\ &= 4.20 \times \frac{0.065}{0.085} \\ &= 3.21 \quad \text{m}^3/\text{日} \quad \text{※小数第3位四捨五入}\end{aligned}$$

充てん材2注入量 (ダンビー工法積算資料 I-37)

$$\begin{aligned}V2 &= \text{1日当たりの充てん材量} \times \frac{\text{1m当りの充てん材2量}}{\text{1m当りの充てん材注入量(計)}} \\ &= 4.20 \times \frac{0.020}{0.085} \\ &= 0.99 \quad \text{m}^3 \quad \text{※小数第3位四捨五入}\end{aligned}$$

1日あたり充てん材注入延長

$$\begin{aligned}&= \text{1日当り充てん材注入量(4.0m}^3/\text{日)} / \text{1m当り充てん材注入量(m}^3/\text{m)} \\ &= 4 \div 0.085 = 48 \quad \text{m/日}\end{aligned}$$

充てん材ストッパー量

補強が必要な場合の充てん材ストッパー量は
ダンビー工法積算資料I-39ページ「充てん材ストッパー工(C-3-2)」備考2より求める。

$$\begin{aligned}\text{1箇所当り急結モルタル量(a)} &= \text{1m当り充てん材注入量(m}^3/\text{m)} \times 0.05(\text{m}) \\ &= 0.004 \quad \text{m}^3 \quad \text{※小数第4位四捨五入} \\ \text{普通作業員} &= (a) \times 38 \quad (\text{人/m}^3) = 0.15 \quad \text{人} \quad \text{※小数第3位四捨五入}\end{aligned}$$

管内注入口工

ダンビー工法積算資料Ⅰ-40ページ「管内注入口工(C-3-3)」注入区間が100mを超える場合や注入ホースの引き込みが不可能な場合(補強鉄筋等)は、管内より注入を行うための注入口の穿孔を行う。

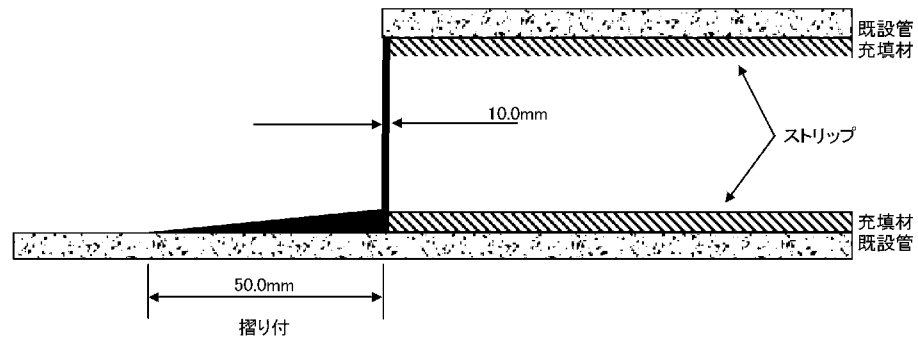
管内注入口は、左右2箇所3m以内毎、および管頂部1箇所7m以内毎に設ける。

$$\begin{aligned} N1 &= 65.40 \div 3 = 22 \text{ 個(切上げ)} & 22 \times 2 &= 44 \text{ 個} \\ N2 &= 65.40 \div 7 = 9 \text{ 個(切下げ)} & & \text{計 } 53 \text{ 個} \end{aligned}$$

注入終了後、注入口を管内注入口プラグにて閉塞する。

管口仕上げ工

人孔側壁と更生管の管口をエポキシ系コーキング材で仕上げる。



補強が必要な場合のエポキシコーキング量は
ダンビー工法積算資料Ⅰ-41ページ「管口仕上工(C-4-1)」備考2より求める。

- ①管口下半面をすりつける場合
1箇所当り管口仕上材資料量(ℓ)

$$\begin{aligned} &= \{ 1\text{m当り充てん材注入量} \times 0.01 + (\text{既設管下半分内空断面} - \text{更生管下半分内空面積}) \times 0.05 / 2 \} \times 1000 \\ &= \{ 0.085 \times 0.01 + (0.393 - 0.343) \times 0.05 / 2 \} \times 1000 \\ &= 2.1 \quad \ell/\text{箇所} \end{aligned}$$

ダンビー工法数量計算書

既設管

内径	1100.00	mm
----	---------	----

路線

製管延長

① 158-21路線	52.30	m
②		m
③		m
④		m
⑤		m
計	52.30	m

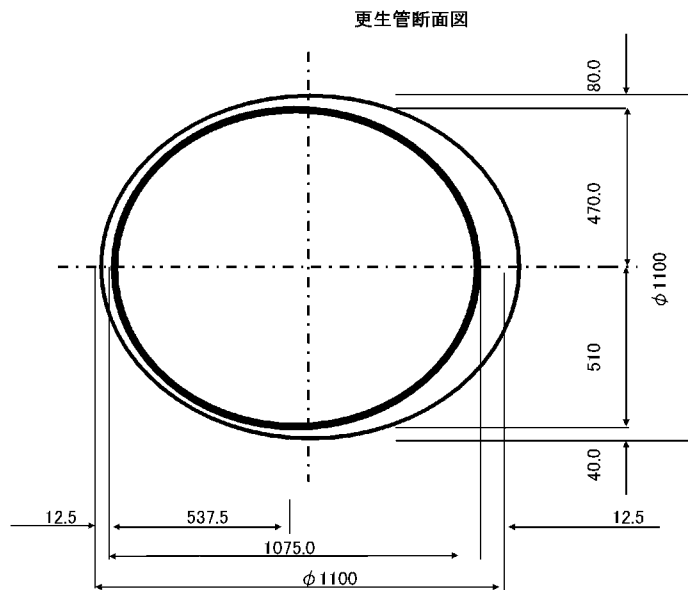
更生概要

スパン数	1.0	スパン
充てん材ストッパー箇所数	2.0	箇所
管口仕上げ箇所数	2.0	箇所
取付管口仕上げ工 φ200以下	16.0	箇所 (平面図より)
取付管口仕上げ工 φ250以下	0.0	箇所 (平面図より)
中間注入口数		箇所
管内注入口数	0.0	箇所

工種

ストリップ管			
標準ストリップ管	ストリップ	S形	596.750 m I-23
	SFジョイナー	S形	596.750 m I-24
製管工			
スペーサー取付工	スペーサー	M形	52.300 m
補強鉄筋工			0.000 m (見積歩掛)
端部製管工	管径1000以上1200mm以下	1.500	m I-24
製管工 直線区間	管径1000以上1200mm以下	50.800	m I-30
製管工 曲線・段差区間			m
目地工			m
端部緊張工	管径800以上2000mm以下	2.0	箇所 I-34
既設管洗浄工	管径1000以上1350mm以下	52.300	m I-35
充てん材注入工	管径1100mm	52.300	m I-37
充てん材ストッパー量(1箇所当り)	管径1100mm	0.005	m ³ I-39
普通作業員		0.19	人 "
管内注入口工	管径1000以上1200mm以下	0.0	箇所 I-40
管口仕上げ工	管径1100mm	2.0	箇所 I-41
管ロケーキング量(1箇所当り)		2.2	ℓ "

ストリップ管



既設管内径	b	1100.0	mm	
ストリップ厚	t	12.5	mm	S形ストリップ
ストリップ有効幅	B1	255.0	mm	S形ストリップ
ストリップとSFジョイナーの1m当り容量	ast	0.00111	m3	S形ストリップ
スパーサー(2.3mm厚)の1m当り容量		0.00150	m3	
スパーサー(頂部)幅		590	mm	M型スパーサー
スパーサー(底部)幅		590	mm	M型スパーサー
管頂部高	h	80.0	mm	耐震計算書より

ストリップ使用量

内周半径

更生管上部(下部)内半径

$$b' = \frac{\text{既設管内径}}{2} - \text{管頂部高} = \frac{1100.0}{2} - 80.0 = 470.0 \text{ mm}$$

更生管横部内半径

$$c' = \frac{\text{既設管内径}}{2} - \text{管側部高} = \frac{1100.0}{2} - 12.5 = 537.5 \text{ mm}$$

※補強鉄筋の場合、頂部と同数

更生管下部内半径

$$a' = \frac{\text{既設管内径}}{2} - \text{管底部高} = \frac{1100.0}{2} - 40.0 = 510.0 \text{ mm}$$

図心半径

更生管上部(下部)図心半径

$$b = b' + \frac{t}{2} = 470.0 + \frac{12.5}{2} = 476.25 \text{ mm}$$

更生管横部図心半径

$$c = c' + \frac{t}{2} = 537.5 + \frac{12.5}{2} = 543.75 \text{ mm}$$

更生管下部図心半径

$$a = a' + \frac{t}{2} = 510.0 + \frac{12.5}{2} = 516.25 \text{ mm}$$

周長

上半分周長

$$L_1 = \pi \sqrt{\frac{c^2}{2} + \frac{b^2}{2}} = \pi \sqrt{\frac{543.75^2}{2} + \frac{476.25^2}{2}} = 1605.7 \text{ mm}$$

下半分周長

$$L_2 = \pi \sqrt{\frac{c^2}{2} + \frac{a^2}{2}} = \pi \sqrt{\frac{543.75^2}{2} + \frac{516.25^2}{2}} = 1665.6 \text{ mm}$$

よって、ストリップ長は

$$L = L_1 + L_2 = 1605.7 + 1665.6 = 3.271 \text{ m/巻}$$

ストリップ使用量

1mあたりのストリップ使用量(L×1000/B1+B2)は

$$\frac{L \times 1000}{290.0} = \frac{3.271 \times 1000}{290.0} = 11.3 \text{ m/m (ダンビー工法積算資料 I-12)}$$

巻立延長は 52.81m であるのでストリップ使用量は

$$\text{ストリップ使用量} \times \text{巻立延長} = 11.3 \times 52.81 = 596.75 \text{ m}$$

※ ダンビー工法積算資料 I-10より

$$\begin{aligned} \text{巻立延長} &= \text{管きょ延長} + (\text{ストリップ有効幅}(B1) \times 2) \\ &= 52.30 + 0.255 \times 2 \\ &= 52.81 \text{ m} \end{aligned}$$

ジョイナー使用量は、ストリップ使用量と同量である。

補強鉄筋重量

L= 更生延長	=	m	
主筋 D10	×	(×
配力筋 D10	×	×	=
		合計	=
補強筋控除	0.00	÷	7850 =

0 kg/m
0 kg/m
0 kg/m
0 m3/m

充てん材注入量

既設管内空面積

$$A_1 = \frac{\pi d^2}{4} = \frac{\pi \times 1100^2}{4} = 950331.8 \text{ mm}^2 = 0.950 \text{ m}^2$$

更生管内空面積

上部

$$A_2 = \frac{\pi c' b'}{2} = \frac{\pi \times 537.5 \times 470.0}{2} = 396822.4 \text{ mm}^2$$

下部

$$A_3 = \frac{\pi c' a'}{2} = \frac{\pi \times 537.5 \times 510.0}{2} = 430594.5 \text{ mm}^2$$

合計

$$A = A_2 + A_3 = 396822.4 + 430594.5 = 0.827 \text{ m}^2$$

ストリップ管容積

$$A_{st} = a_{st} \times L = 0.00111 \text{ m}^3 \times 11.3 \text{ m} = 0.013 \text{ m}^3/\text{m}$$

a_{st} : 材料1mあたりのストリップ容積(ダンビー工法積算資料 I-13)
 L : 更生1mあたりのストリップ長

1m当たり充てん材注入量

$$\begin{aligned}
 V &= [A_1 - (A_2 + A_3)] \times 1\text{m} - \text{ストリップ管容積(ストリップ容量 + SFジョイナー)} - \text{鋼材容量(スパーサー容量 + 補強材容量)} \\
 &= (0.950 - 0.827) \times 1 - 0.013 - 0.0018 \\
 &= 0.108 \text{ m}^3/\text{m}
 \end{aligned}$$

充てん材2注入量

別添材料計算書のとおり、CAD計測による。

$$\begin{aligned} \text{充てん材2(CAD)} &= 0.056 \quad \text{m}^3/\text{m} \\ \text{控除ストリップ長(CAD)} &= 0.728 \quad \text{m} \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} &1\text{mあたり充てん材2注入量(V2)} \\ &= \text{充てん材2} - \text{ストリップ管容量} \\ &= 0.056 - (0.728 \div 0.29 \times 0.00111) \\ V2 &= 0.053 \quad \text{m}^3/\text{m} \end{aligned}$$

充てん材1注入量

$$\begin{aligned} V1 &= 1\text{m当り充てん材注入量}-\text{充てん材2} \quad (\text{ダンビー工法積算資料 I-13}) \\ &= 0.108 - 0.053 \\ &= 0.055 \quad \text{m}^3/\text{m} \end{aligned}$$

1日当り注入量

1日当り総注入量

$$V = 4.20 \quad \text{m}^3/\text{日}$$

充てん材1注入量 (ダンビー工法積算資料 I-37)

$$\begin{aligned} V1 &= 1\text{日当たりの充てん材量} \times \frac{1\text{m当りの充てん材1量}}{1\text{m当りの充てん材注入量(計)}} \\ &= 4.20 \times \frac{0.055}{0.108} \\ &= 2.14 \quad \text{m}^3/\text{日} \quad \text{※小数第3位四捨五入} \end{aligned}$$

充てん材2注入量 (ダンビー工法積算資料 I-37)

$$\begin{aligned} V2 &= 1\text{日当たりの充てん材量} \times \frac{1\text{m当りの充てん材2量}}{1\text{m当りの充てん材注入量(計)}} \\ &= 4.20 \times \frac{0.053}{0.108} \\ &= 2.06 \quad \text{m}^3 \quad \text{※小数第3位四捨五入} \end{aligned}$$

1日あたり充てん材注入延長

$$\begin{aligned} &= 1\text{日当り充てん材注入量}(4.0\text{m}^3/\text{日})/1\text{m当り充てん材注入量}(\text{m}^3/\text{m}) \\ &= 4 \div 0.108 = 38 \text{ m/日} \end{aligned}$$

充てん材ストッパー量

補強が必要な場合の充てん材ストッパー量は
ダンビー工法積算資料I-39ページ「充てん材ストッパー工(C-3-2)」備考2より求める。

$$\begin{aligned} 1\text{箇所当り急結モルタル量(a)} &= 1\text{m当り充てん材注入量}(\text{m}^3/\text{m}) \times 0.05(\text{m}) \\ &= 0.005 \quad \text{m}^3 \quad \text{※小数第4位四捨五入} \\ \text{普通作業員} &= (a) \times 38 \text{ (人/m}^3\text{)} = 0.19 \text{ 人} \quad \text{※小数第3位四捨五入} \end{aligned}$$

管内注入口工

ダンビー工法積算資料 I -40ページ「管内注入口工(C-3-3)」注入区間が100mを超える場合や注入ホースの引き込みが不可能な場合(補強鉄筋等)は、管内より注入を行うための注入口の穿孔を行う。

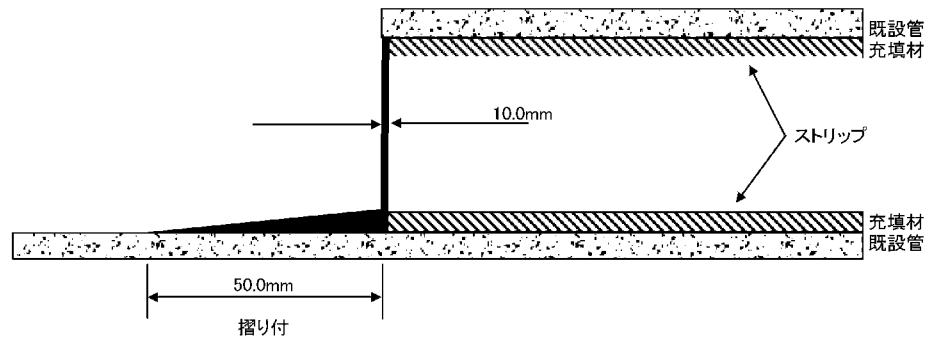
管内注入口は、左右2箇所3m以内毎、および管頂部1箇所7m以内毎に設ける。

$$\begin{aligned} N1 &= 0.00 \div 3 = 0 \text{ 個(切上げ)} & 0 \times 2 &= 0 \text{ 個} \\ N2 &= 0.00 \div 7 = 0 \text{ 個(切下げ)} & & \text{計 } 0 \text{ 個} \end{aligned}$$

注入終了後、注入口を管内注入口プラグにて閉塞する。

管口仕上げ工

人孔側壁と更生管の管口をエポキシ系コーキング材で仕上げる。



補強が必要な場合のエポキシコーキング量は
ダンビー工法積算資料I-41ページ「管口仕上工(C-4-1)」備考2より求める。

- ①管口下半面をすりつける場合
1箇所当り管口仕上材資料量(ℓ)

$$\begin{aligned} &= \{1\text{m当り充填材注入量} \times 0.01 + (\text{既設管下半分内空断面} - \text{更生管下半分内空面積}) \times 0.05 / 2\} \times 1000 \\ &= \{ 0.108 \times 0.01 + (0.475 - 0.431) \times 0.05 / 2 \} \times 1000 \\ &= 2.2 \text{ ℓ/箇所} \end{aligned}$$

ダンビー工法数量計算書

既設管

内径	1100.00	mm
----	---------	----

路線

製管延長

① 159-22路線	37.95	m
②		m
③		m
④		m
⑤		m
計	37.95	m

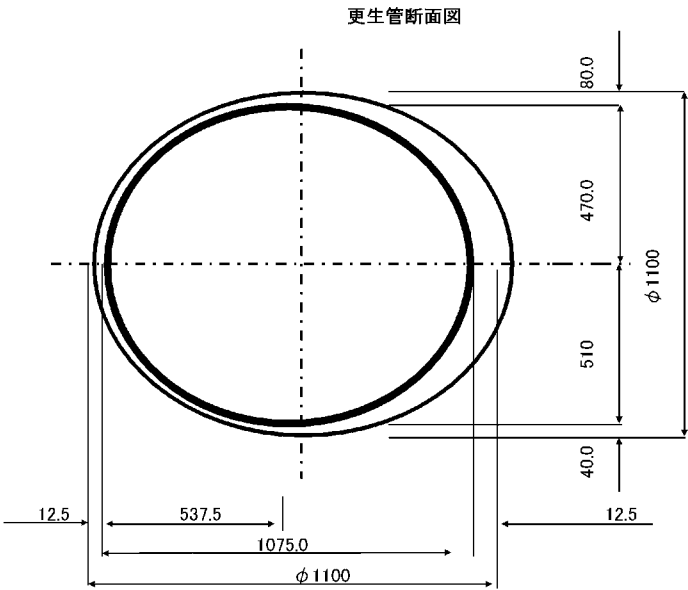
更生概要

スパン数	1.0	スパン
充てん材ストッパー箇所数	2.0	箇所
管口仕上げ箇所数	2.0	箇所
取付管口仕上げ工 φ200以下	6.0	箇所 (平面図より)
取付管口仕上げ工 φ250以下	0.0	箇所 (平面図より)
中間注入口数		箇所
管内注入口数	0.0	箇所

工種

ストリップ管			
標準ストリップ管	ストリップ	S形	I-23
	SFジョイナー	S形	I-24
製管工			
スペーサー取付工	スペーサー	S形	
補強鉄筋工			(見積歩掛)
端部製管工	管径1000以上1200mm以下		I-24
製管工 直線区間	管径1000以上1200mm以下		I-30
製管工 曲線・段差区間			
目地工			
端部緊張工	管径800以上2000mm以下		I-34
既設管洗浄工	管径1000以上1350mm以下		I-35
充てん材注入工	管径1100mm		I-37
充てん材ストッパー量(1箇所当り)	管径1100mm		I-39
普通作業員			"
管内注入口工	管径1000以上1200mm以下		I-40
管口仕上げ工	管径1100mm		I-41
管ロッキング量(1箇所当り)			"

ストリップ管



既設管内径	b	1100.0	mm	
ストリップ厚	t	12.5	mm	S形ストリップ
ストリップ有効幅	B1	255.0	mm	S形ストリップ
ストリップとSFジョイナーの1m当り容量	ast	0.00111	m3	S形ストリップ
スパーサー(2.3mm厚)の1m当り容量		0.00150	m3	
スパーサー(頂部)幅		590	mm	M型スパーサー
スパーサー(底部)幅		590	mm	M型スパーサー
管頂部高	h	80.0	mm	耐震計算書より

ストリップ使用量

内周半径

更生管上部(下部)内半径

$$b' = \frac{\text{既設管内径}}{2} - \text{管頂部高} = \frac{1100.0}{2} - 80.0 = 470.0 \text{ mm}$$

更生管横部内半径

$$c' = \frac{\text{既設管内径}}{2} - \text{管側部高} = \frac{1100.0}{2} - 12.5 = 537.5 \text{ mm}$$

※補強鉄筋の場合、頂部と同数

更生管下部内半径

$$a' = \frac{\text{既設管内径}}{2} - \text{管底部高} = \frac{1100.0}{2} - 40.0 = 510.0 \text{ mm}$$

図心半径

更生管上部(下部)図心半径

$$b = b' + \frac{t}{2} = 470.0 + \frac{12.5}{2} = 476.25 \text{ mm}$$

更生管横部図心半径

$$c = c' + \frac{t}{2} = 537.5 + \frac{12.5}{2} = 543.75 \text{ mm}$$

更生管下部図心半径

$$a = a' + \frac{t}{2} = 510.0 + \frac{12.5}{2} = 516.25 \text{ mm}$$

周長

上半分周長

$$L_1 = \pi \sqrt{\frac{c^2}{2} + \frac{b^2}{2}} = \pi \sqrt{\frac{543.75^2}{2} + \frac{476.25^2}{2}} = 1605.7 \text{ mm}$$

下半分周長

$$L_2 = \pi \sqrt{\frac{c^2}{2} + \frac{a^2}{2}} = \pi \sqrt{\frac{543.75^2}{2} + \frac{516.25^2}{2}} = 1665.6 \text{ mm}$$

よって、ストリップ長は

$$L = L_1 + L_2 = 1605.7 + 1665.6 = 3271 \text{ m/巻}$$

ストリップ使用量

1mあたりのストリップ使用量(L×1000/B1+B2)は

$$\frac{L}{290.0} \times \frac{1000}{290.0} = \frac{3271}{290.0} \times \frac{1000}{290.0} = 11.3 \text{ m/m (ダンビー工法積算資料 I-12)}$$

巻立延長は 38.46m であるのでストリップ使用量は

$$\text{ストリップ使用量} \times \text{巻立延長} = 11.3 \times 38.46 = 434.60 \text{ m}$$

※ ダンビー工法積算資料 I-10より

$$\begin{aligned} \text{巻立延長} &= \text{管きよ延長} + (\text{ストリップ有効幅}(B1) \times 2) \\ &= 37.95 + 0.255 \times 2 \\ &= 38.46 \text{ m} \end{aligned}$$

ジョイナー使用量は、ストリップ使用量と同量である。

補強鉄筋重量

L= 更生延長	=	m	
主筋 D10	×	(×
配力筋 D10	×	×	=
			0 kg/m
			0 kg/m
		合計	=
			0 kg/m
補強筋控除	0.00	÷	7850 =
			0 m3/m

充てん材注入量

既設管内空面積

$$A_1 = \frac{\pi d^2}{4} = \frac{\pi \times 1100^2}{4} = 950331.8 \text{ mm}^2 = 0.950 \text{ m}^2$$

更生管内空面積

上部

$$A_2 = \frac{\pi c' b'}{2} = \frac{\pi \times 537.5 \times 470.0}{2} = 396822.4 \text{ mm}^2$$

下部

$$A_3 = \frac{\pi c' a'}{2} = \frac{\pi \times 537.5 \times 510.0}{2} = 430594.5 \text{ mm}^2$$

合計

$$A = A_2 + A_3 = 396822.4 + 430594.5 = 0.827 \text{ m}^2$$

ストリップ管容積

$$A_{st} = a_{st} \times L = 0.00111 \text{ m}^3 \times 11.3 \text{ m} = 0.013 \text{ m}^3/\text{m}$$

a_{st} : 材料1mあたりのストリップ容積(ダンビー工法積算資料 I-13)
 L : 更生1mあたりのストリップ長

1m当たり充てん材注入量

$$\begin{aligned}
 V &= [A_1 - (A_2 + A_3)] \times 1\text{m} - \text{ストリップ管容積(ストリップ容量 + SFジョイナー)} - \text{鋼材容量(スパーサー容量 + 補強材容量)} \\
 &= (0.950 - 0.827) \times 1 - 0.013 - 0.0018 \\
 &= 0.108 \text{ m}^3/\text{m}
 \end{aligned}$$

充てん材2注入量

別添材料計算書のとおり、CAD計測による。

$$\begin{aligned} \text{充てん材2(CAD)} &= 0.056 \quad \text{m}^3/\text{m} \\ \text{控除ストリップ長(CAD)} &= 0.728 \quad \text{m} \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} &\text{1mあたり充てん材2注入量(V2)} \\ &= \text{充てん材2} - \text{ストリップ管容量} \\ &= 0.056 - (0.728 \div 0.29 \times 0.00111) \\ V2 &= 0.053 \quad \text{m}^3/\text{m} \end{aligned}$$

充てん材1注入量

$$\begin{aligned} V1 &= \text{1m当り充てん材注入量}-\text{充てん材2} \quad (\text{ダンビー工法積算資料 I-13}) \\ &= 0.108 - 0.053 \\ &= 0.055 \quad \text{m}^3/\text{m} \end{aligned}$$

1日当り注入量

1日当り総注入量

$$V = 4.20 \quad \text{m}^3/\text{日}$$

充てん材1注入量 (ダンビー工法積算資料 I-37)

$$\begin{aligned} V1 &= \text{1日当たりの充てん材量} \times \frac{\text{1m当りの充てん材1量}}{\text{1m当りの充てん材注入量(計)}} \\ &= 4.20 \times \frac{0.055}{0.108} \\ &= 2.14 \quad \text{m}^3/\text{日} \quad \text{※小数第3位四捨五入} \end{aligned}$$

充てん材2注入量 (ダンビー工法積算資料 I-37)

$$\begin{aligned} V2 &= \text{1日当たりの充てん材量} \times \frac{\text{1m当りの充てん材2量}}{\text{1m当りの充てん材注入量(計)}} \\ &= 4.20 \times \frac{0.053}{0.108} \\ &= 2.06 \quad \text{m}^3 \quad \text{※小数第3位四捨五入} \end{aligned}$$

1日あたり充てん材注入延長

$$\begin{aligned} &= \text{1日当り充てん材注入量(4.0m}^3/\text{日)} / \text{1m当り充てん材注入量(m}^3/\text{m)} \\ &= 4 \div 0.108 = 38 \text{ m/日} \end{aligned}$$

充てん材ストッパー量

補強が必要な場合の充てん材ストッパー量は
ダンビー工法積算資料I-39ページ「充てん材ストッパー工(C-3-2)」備考2より求める。

$$\begin{aligned} \text{1箇所当り急結モルタル量(a)} &= \text{1m当り充てん材注入量(m}^3/\text{m)} \times 0.05(\text{m}) \\ &= 0.005 \quad \text{m}^3 \quad \text{※小数第4位四捨五入} \\ \text{普通作業員} &= (a) \times 38 \text{ (人/m}^3\text{)} = 0.19 \text{ 人} \quad \text{※小数第3位四捨五入} \end{aligned}$$

管内注入口工

ダンビー工法積算資料 I -40ページ「管内注入口工(C-3-3)」注入区間が100mを超える場合や注入ホースの引き込みが不可能な場合(補強鉄筋等)は、管内より注入を行うための注入口の穿孔を行う。

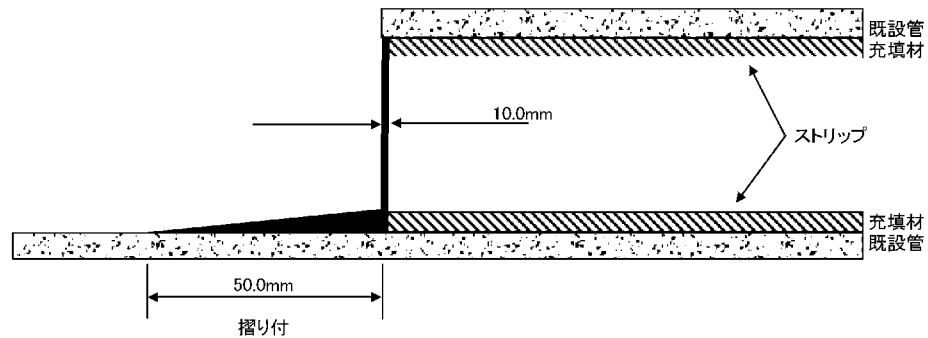
管内注入口は、左右2箇所3m以内毎、および管頂部1箇所7m以内毎に設ける。

$$\begin{aligned} N1 &= 0.00 \div 3 = 0 \text{ 個(切上げ)} & 0 \times 2 &= 0 \text{ 個} \\ N2 &= 0.00 \div 7 = 0 \text{ 個(切下げ)} & & \text{計 } 0 \text{ 個} \end{aligned}$$

注入終了後、注入口を管内注入口プラグにて閉塞する。

管口仕上げ工

人孔側壁と更生管の管口をエポキシ系コーキング材で仕上げる。



補強が必要な場合のエポキシコーキング量は
ダンビー工法積算資料I-41ページ「管口仕上工(C-4-1)」備考2より求める。

①管口下半面をすりつける場合
1箇所当り管口仕上材資料量(ℓ)

$$\begin{aligned} &= \{1\text{m当り充填材注入量} \times 0.01 + (\text{既設管下半分内空断面} - \text{更生管下半分内空面積}) \times 0.05 / 2\} \times 1000 \\ &= \{ 0.108 \times 0.01 + (0.475 - 0.431) \times 0.05 / 2 \} \times 1000 \\ &= 2.2 \text{ ℓ/箇所} \end{aligned}$$

ダンピー工法数量計算書

既設管

内径	1350.00	mm
----	---------	----

路線

製管延長

① 159-22路線	68.15	m
②		m
③		m
④		m
⑤		m
計	68.15	m

更生概要

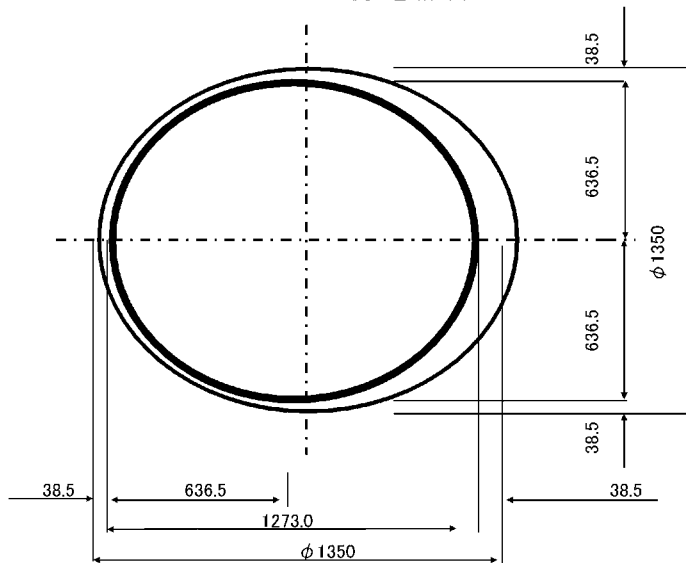
スパン数	1.0	スパン
充てん材ストッパー箇所数	2.0	箇所
管口仕上げ箇所数	2.0	箇所
取付管口仕上げ工 φ200以下	1.0	箇所 (平面図より)
取付管口仕上げ工 φ250以下	0.0	箇所 (平面図より)
中間注入口数		箇所
管内注入口数	55.0	箇所

工種

ストリップ管			
標準ストリップ管	ストリップ	S形	954.370 m I-23
	SFジョイナー	S形	954.370 m I-24
製管工			
スペーサー取付工	スペーサー	S形	0.000 m
補強鉄筋工			68.150 m (見積歩掛)
端部製管工	管径1350以上1500mm以下	1.500	m I-24
製管工 直線区間	管径1350以上1500mm以下	66.650	m I-30
製管工 曲線・段差区間			m
目地工			m
端部緊張工	管径800以上2000mm以下	2.0	箇所 I-34
既設管洗浄工	管径1000以上1350mm以下	68.150	m I-35
充てん材注入工	管径1350mm	68.150	m I-37
充てん材ストッパー量(1箇所当り)	管径1350mm	0.007	m ³ I-39
普通作業員		0.27	人 "
管内注入口工	管径1350以上1650mm以下	55.0	箇所 I-40
管口仕上げ工	管径1350mm	2.0	箇所 I-41
管ローキング量(1箇所当り)		3.4	ℓ "

ストリップ管

更生管断面図



既設管内径	b	1350.0	mm	
ストリップ厚	t	12.5	mm	S形ストリップ
ストリップ有効幅	B1	255.0	mm	S形ストリップ
ストリップとSFジョイナーの1m当り容量	ast	0.00111	m3	S形ストリップ
スペーサー(2.3mm厚)の1m当り容量		0.00150	m3	
管頂部高	h	38.5	mm	耐震計算書より

ストリップ使用量

内周半径

更生管上部(下部)内半径

$$b' = \frac{\text{既設管内径}}{2} - \text{管頂部高} = \frac{1350.0}{2} - 38.5 = 636.5 \text{ mm}$$

更生管横部内半径

$$c' = \frac{\text{既設管内径}}{2} - \text{管側部高} = \frac{1350.0}{2} - 38.5 = 636.5 \text{ mm}$$

※補強鉄筋の場合、頂部と同数

更生管下部内半径

$$a' = \frac{\text{既設管内径}}{2} - \text{管底部高} = \frac{1350.0}{2} - 38.5 = 636.5 \text{ mm}$$

図心半径

更生管上部(下部)図心半径

$$b = b' + \frac{t}{2} = 636.5 + \frac{12.5}{2} = 642.75 \text{ mm}$$

更生管横部図心半径

$$c = c' + \frac{t}{2} = 636.5 + \frac{12.5}{2} = 642.75 \text{ mm}$$

更生管下部図心半径

$$a = a' + \frac{t}{2} = 636.5 + \frac{12.5}{2} = 642.75 \text{ mm}$$

周長

上半分周長

$$L_1 = \pi \sqrt{\frac{c^2}{2} + \frac{b^2}{2}} = \pi \times \sqrt{\frac{642.75^2}{2} + \frac{642.75^2}{2}} = 2019.3 \text{ mm}$$

下半分周長

$$L_2 = \pi \sqrt{\frac{c^2}{2} + \frac{a^2}{2}} = \pi \times \sqrt{\frac{642.75^2}{2} + \frac{642.75^2}{2}} = 2019.3 \text{ mm}$$

よって、ストリップ長は

$$L = L_1 + L_2 = 2019.3 + 2019.3 = 4.039 \text{ m/巻}$$

ストリップ使用量

1mあたりのストリップ使用量(L×1000/B1+B2)は

$$\frac{L}{290.0} \times \frac{1000}{290.0} = \frac{4.039}{290.0} \times \frac{1000}{290.0} = 13.9 \text{ m/m (ダンビー工法積算資料 I-12)}$$

巻立延長は 68.66m であるのでストリップ使用量は

$$\text{ストリップ使用量} \times \text{巻立延長} = 13.9 \times 68.66 = 954.37 \text{ m}$$

※ ダンビー工法積算資料 I-10より

$$\begin{aligned} \text{巻立延長} &= \text{管きょ延長} + (\text{ストリップ有効幅}(B1) \times 2) \\ &= 68.15 + 0.255 \times 2 \\ &= 68.66 \text{ m} \end{aligned}$$

ジョイナー使用量は、ストリップ使用量と同量である。

補強鉄筋重量

$$L = \text{更生延長} = 68.15 \text{ m}$$

$$\text{主筋 D13} \quad 0.995 \times (1.921 \times 3 \times 4) = 22.94 \text{ kg/m}$$

$$\text{配力筋 D13} \quad 0.995 \times (1.00 \times 16) = 15.92 \text{ kg/m}$$

$$\text{合計} = 38.86 \text{ kg/m}$$

$$\text{補強筋控除} \quad 38.86 \div 7850 = 0.005 \text{ m}^3/\text{m}$$

充てん材注入量

既設管内空面積

$$A_1 = \frac{\pi d^2}{4} = \frac{\pi \times 1350^2}{4} = 1431388.2 \text{ mm}^2 = 1.431 \text{ m}^2$$

更生管内空面積

上部

$$A_2 = \frac{\pi c' b'}{2} = \frac{\pi \times 636.5 \times 636.5}{2} = 636380.3 \text{ mm}^2$$

下部

$$A_3 = \frac{\pi c' a'}{2} = \frac{\pi \times 636.5 \times 636.5}{2} = 636380.3 \text{ mm}^2$$

合計

$$A = A_2 + A_3 = 636380.3 + 636380.3 = 1.273 \text{ m}^2$$

ストリップ管容積

$$A_{st} = a_{st} \times L = 0.00111 \text{ m}^3 \times 13.9 \text{ m} = 0.015 \text{ m}^3/\text{m}$$

a_{st} : 材料1mあたりのストリップ容積(ダンビー工法積算資料 I-13)
 L : 更生1mあたりのストリップ長

1m当たり充てん材注入量

$$\begin{aligned}
 V &= [A_1 - (A_2 + A_3)] \times 1\text{m} - \text{ストリップ管容積(ストリップ容量 + SFジョイナー)} - \text{鋼材容量(スパーサー容量 + 補強材容量)} \\
 &= (1.431 - 1.273) \times 1 - 0.015 - 0.0050 \\
 &= 0.138 \text{ m}^3/\text{m}
 \end{aligned}$$

充てん材2注入量

別添材料計算書のとおり、CAD計測による。

$$\begin{aligned} \text{充てん材2(CAD)} &= 0.031 \quad \text{m}^3/\text{m} \\ \text{控除ストリップ長(CAD)} &= 0.75 \quad \text{m} \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} &\text{1mあたり充てん材2注入量(V2)} \\ &= \text{充てん材2} - \text{ストリップ管容量} \\ &= 0.031 - (0.75 \div 0.29 \times 0.00111) \\ V2 &= 0.028 \quad \text{m}^3/\text{m} \end{aligned}$$

充てん材1注入量

$$\begin{aligned} V1 &= \text{1m当り充てん材注入量}-\text{充てん材2} \quad (\text{ダンビー工法積算資料 I-13}) \\ &= 0.138 - 0.028 \\ &= 0.110 \quad \text{m}^3/\text{m} \end{aligned}$$

1日当り注入量

1日当り総注入量

$$V = 4.20 \quad \text{m}^3/\text{日}$$

充てん材1注入量 (ダンビー工法積算資料 I-37)

$$\begin{aligned} V1 &= \text{1日当たりの充てん材量} \times \frac{\text{1m当りの充てん材1量}}{\text{1m当りの充てん材注入量(計)}} \\ &= 4.20 \times \frac{0.110}{0.138} \\ &= 3.35 \quad \text{m}^3/\text{日} \quad \text{※小数第3位四捨五入} \end{aligned}$$

充てん材2注入量 (ダンビー工法積算資料 I-37)

$$\begin{aligned} V2 &= \text{1日当たりの充てん材量} \times \frac{\text{1m当りの充てん材2量}}{\text{1m当りの充てん材注入量(計)}} \\ &= 4.20 \times \frac{0.028}{0.138} \\ &= 0.85 \quad \text{m}^3 \quad \text{※小数第3位四捨五入} \end{aligned}$$

1日あたり充てん材注入延長

$$\begin{aligned} &= \text{1日当り充てん材注入量(4.0m}^3/\text{日)} / \text{1m当り充てん材注入量(m}^3/\text{m)} \\ &= 4 \div 0.138 = 29 \text{ m/日} \end{aligned}$$

充てん材ストッパー量

補強が必要な場合の充てん材ストッパー量は
ダンビー工法積算資料I-39ページ「充てん材ストッパー工(C-3-2)」備考2より求める。

$$\begin{aligned} \text{1箇所当り急結モルタル量(a)} &= \text{1m当り充てん材注入量(m}^3/\text{m)} \times 0.05(\text{m}) \\ &= 0.007 \quad \text{m}^3 \quad \text{※小数第4位四捨五入} \\ \text{普通作業員} &= (a) \times 38 \text{ (人/m}^3\text{)} = 0.27 \text{ 人} \quad \text{※小数第3位四捨五入} \end{aligned}$$

管内注入口工

ダンビー工法積算資料 I -40ページ「管内注入口工(C-3-3)」注入区間が100mを超える場合や
注入ホースの引き込みが不可能な場合(補強鉄筋等)は、管内より注入を行うための注入口の穿孔を行う。

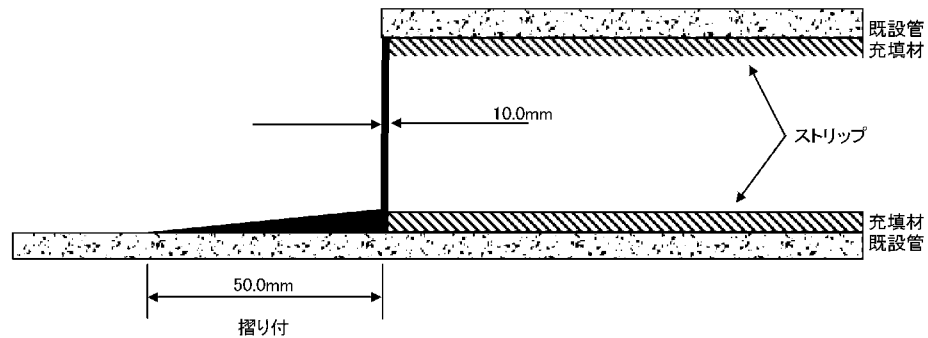
管内注入口は、左右2箇所3m以内毎、および管頂部1箇所7m以内毎に設ける。

$$\begin{aligned} N1 &= 68.15 \div 3 = 23 \text{ 個(切上げ)} & 23 \times 2 &= 46 \text{ 個} \\ N2 &= 68.15 \div 7 = 9 \text{ 個(切下げ)} & & \text{計 } 55 \text{ 個} \end{aligned}$$

注入終了後、注入口を管内注入口プラグにて閉塞する。

管口仕上げ工

人孔側壁と更生管の管口をエポキシ系コーキング材で仕上げる。



補強が必要な場合のエポキシコーキング量は
ダンビー工法積算資料I-41ページ「管口仕上工(C-4-1)」備考2より求める。

- ①管口下半面をすりつける場合
1箇所当り管口仕上材資料量(ℓ)

$$\begin{aligned} &= \{1\text{m当り充填材注入量} \times 0.01 + (\text{既設管下半分内空断面} - \text{更生管下半分内空面積}) \times 0.05 / 2\} \times 1000 \\ &= \{ 0.138 \times 0.01 + (0.716 - 0.636) \times 0.05 / 2 \} \times 1000 \\ &= 3.4 \text{ ℓ/箇所} \end{aligned}$$

ダンピー工法数量計算書

既設管

内径	1500.00	mm
----	---------	----

路線

製管延長

① 161-24路線	58.80	m
②		m
③		m
④		m
⑤		m
計	58.80	m

更生概要

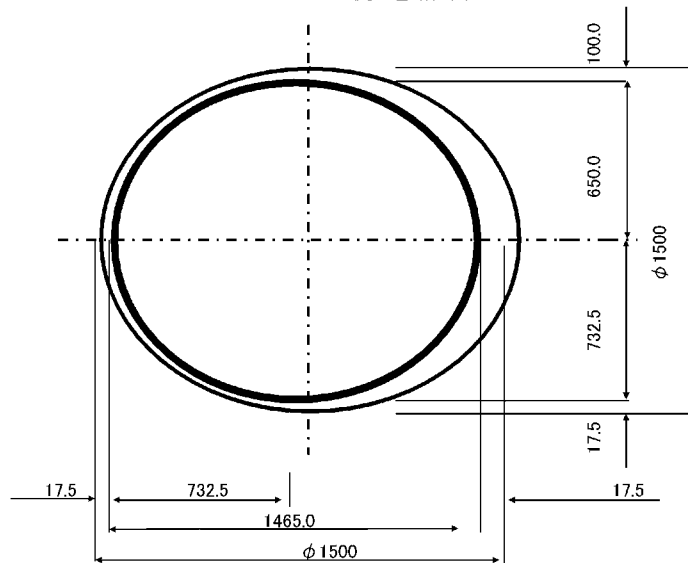
スパン数	1.0	スパン
充てん材ストッパー箇所数	2.0	箇所
管口仕上げ箇所数	2.0	箇所
取付管口仕上げ工 φ200以下	4.0	箇所 (平面図より)
取付管口仕上げ工 φ250以下	0.0	箇所 (平面図より)
中間注入口数		箇所
管内注入口数	0.0	箇所

工種

ストリップ管			
標準ストリップ管	ストリップ	L形	960.660 m I-23
	SFジョイナー	L形	960.660 m I-24
製管工			
スペーサー取付工	スペーサー	L形	58.800 m
補強鉄筋工			0.000 m (見積歩掛)
端部製管工	管径1350以上1500mm以下		1.500 m I-24
製管工 直線区間	管径1350以上1500mm以下		57.300 m I-30
製管工 曲線・段差区間			m
目地工			m
端部緊張工	管径800以上2000mm以下		2.0 箇所 I-34
既設管洗浄工	管径1500以上2000mm以下		58.800 m I-35
充てん材注入工	管径1500mm		58.800 m I-37
充てん材ストッパー量(1箇所当り)	管径1500mm		m ³ I-39
普通作業員			人 "
管内注入口工	管径1350以上1650mm以下		0.0 箇所 I-40
管口仕上げ工	管径1500mm		2.0 箇所 I-41
管ロウキング量(1箇所当り)			2.3 ℓ "

ストリップ管

更生管断面図



既設管内径	b	1500.0	mm	
ストリップ厚	t	17.5	mm	L形ストリップ
ストリップ有効幅	B1	250.0	mm	L形ストリップ
ストリップとSFジョイナーの1m当り容量	ast	0.00140	m3	L形ストリップ
スぺーサー(2.3mm厚)の1m当り容量		0.00150	m3	
スぺーサー(頂部)幅		570	mm	L形スぺーサー
スぺーサー(底部)幅			mm	L型スぺーサー
管頂部高	h	100.0	mm	耐震計算書より

ストリップ使用量

内周半径

更生管上部(下部)内半径

$$b' = \frac{\text{既設管内径}}{2} - \text{管頂部高} = \frac{1500.0}{2} - 100.0 = 650.0 \text{ mm}$$

更生管横部内半径

$$c' = \frac{\text{既設管内径}}{2} - \text{管側部高} = \frac{1500.0}{2} - 17.5 = 732.5 \text{ mm}$$

※補強鉄筋の場合、頂部と同数

更生管下部内半径

$$a' = \frac{\text{既設管内径}}{2} - \text{管底部高} = \frac{1500.0}{2} - 17.5 = 732.5 \text{ mm}$$

図心半径

更生管上部(下部)図心半径

$$b = b' + \frac{t}{2} = 650.0 + \frac{17.5}{2} = 658.75 \text{ mm}$$

更生管横部図心半径

$$c = c' + \frac{t}{2} = 732.5 + \frac{17.5}{2} = 741.25 \text{ mm}$$

更生管下部図心半径

$$a = a' + \frac{t}{2} = 732.5 + \frac{17.5}{2} = 741.25 \text{ mm}$$

周長

上半分周長

$$L_1 = \pi \sqrt{\frac{c^2}{2} + \frac{b^2}{2}} = \pi \sqrt{\frac{741.25^2}{2} + \frac{658.75^2}{2}} = 2202.9 \text{ mm}$$

下半分周長

$$L_2 = \pi \sqrt{\frac{c^2}{2} + \frac{a^2}{2}} = \pi \sqrt{\frac{741.25^2}{2} + \frac{741.25^2}{2}} = 2328.7 \text{ mm}$$

よって、ストリップ長は

$$L = L_1 + L_2 = 2202.9 + 2328.7 = 4532 \text{ m/巻}$$

ストリップ使用量

1mあたりのストリップ使用量(L×1000/B1+B2)は

$$\frac{L \times 1000}{280.0} = \frac{4532 \times 1000}{280.0} = 16.2 \text{ m/m (ダンビー工法積算資料 I-12)}$$

巻立延長は 59.30m であるのでストリップ使用量は

$$\text{ストリップ使用量} \times \text{巻立延長} = 16.2 \times 59.30 = 960.66 \text{ m}$$

※ ダンビー工法積算資料 I-10より

$$\begin{aligned} \text{巻立延長} &= \text{管きよ延長} + (\text{ストリップ有効幅}(B1) \times 2) \\ &= 58.80 + 0.250 \times 2 \\ &= 59.30 \text{ m} \end{aligned}$$

ジョイナー使用量は、ストリップ使用量と同量である。

補強鉄筋重量

L= 更生延長	=	m	
主筋 D10	×	(×
配力筋 D10	×	×	=
			0 kg/m
			0 kg/m
		合計	=
			0 kg/m
補強筋控除	0.00	÷	7850 =
			0 m3/m

充てん材注入量

既設管内空面積

$$A_1 = \frac{\pi d^2}{4} = \frac{\pi \times 1500^2}{4} = 1767145.9 \text{ mm}^2 = 1.767 \text{ m}^2$$

更生管内空面積

上部

$$A_2 = \frac{\pi c' b'}{2} = \frac{\pi \times 732.5 \times 650.0}{2} = 747895.4 \text{ mm}^2$$

下部

$$A_3 = \frac{\pi c' a'}{2} = \frac{\pi \times 732.5 \times 732.5}{2} = 842820.6 \text{ mm}^2$$

合計

$$A = A_2 + A_3 = 747895.4 + 842820.6 = 1.591 \text{ m}^2$$

ストリップ管容積

$$A_{st} = a_{st} \times L = 0.00140 \text{ m}^3 \times 16.2 \text{ m} = 0.023 \text{ m}^3/\text{m}$$

a_{st} : 材料1mあたりのストリップ容積(ダンビー工法積算資料 I-13)
 L : 更生1mあたりのストリップ長

1m当たり充てん材注入量

$$\begin{aligned}
 V &= [A_1 - (A_2 + A_3)] \times 1\text{m} - \text{ストリップ管容積(ストリップ容量 + SFジョイナー)} - \text{鋼材容量(スパーサー容量 + 補強材容量)} \\
 &= (1.767 - 1.591) \times 1 - 0.023 - 0.0009 \\
 &= 0.152 \text{ m}^3/\text{m}
 \end{aligned}$$

充てん材2注入量

別添材料計算書のとおり、CAD計測による。

$$\begin{aligned} \text{充てん材2(CAD)} &= 0.087 \quad \text{m}^3/\text{m} \\ \text{控除ストリップ長(CAD)} &= 0.854 \quad \text{m} \end{aligned}$$

1mあたり充てん材2注入量(V2)

$$= \text{充てん材2} - \text{ストリップ管容量} \\ = 0.087 - (0.854 \div 0.29 \times 0.0014)$$

$$V2 = 0.083 \quad \text{m}^3/\text{m}$$

充てん材1注入量

$$V1 = 1\text{m当り充てん材注入量} - \text{充てん材2} \quad (\text{ダンビー工法積算資料 I-13})$$

$$= 0.152 - 0.083$$

$$= 0.069 \quad \text{m}^3/\text{m}$$

1日当り注入量

1日当り総注入量

$$V = 4.20 \quad \text{m}^3/\text{日}$$

充てん材1注入量 (ダンビー工法積算資料 I-37)

$$V1 = 1\text{日当たりの充てん材量} \times \frac{1\text{m当りの充てん材1量}}{1\text{m当りの充てん材注入量(計)}}$$

$$= 4.20 \times \frac{0.069}{0.152}$$

$$= 1.91 \quad \text{m}^3/\text{日} \quad \text{※小数第3位四捨五入}$$

充てん材2注入量 (ダンビー工法積算資料 I-37)

$$V2 = 1\text{日当たりの充てん材量} \times \frac{1\text{m当りの充てん材2量}}{1\text{m当りの充てん材注入量(計)}}$$

$$= 4.20 \times \frac{0.083}{0.152}$$

$$= 2.29 \quad \text{m}^3 \quad \text{※小数第3位四捨五入}$$

ダンビー工法数量計算書

既設管

内径	1500.00	mm
----	---------	----

路線

製管延長

① 161-25路線	29.40	m
②		m
③		m
④		m
⑤		m
計	29.40	m

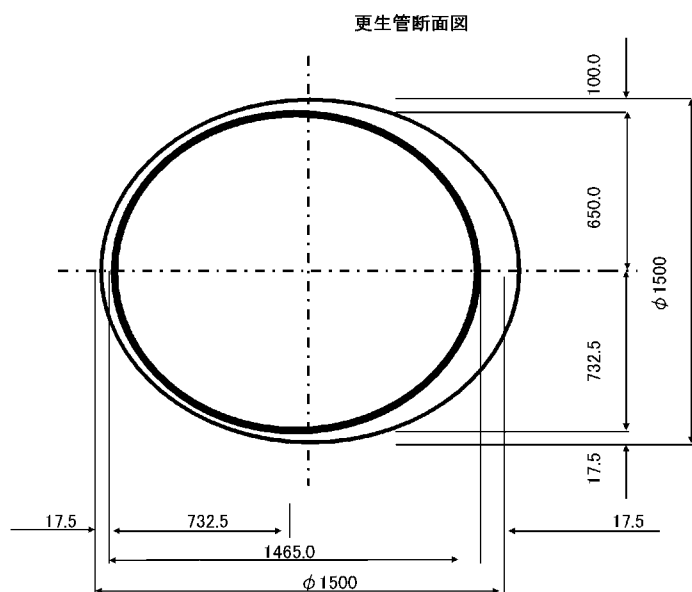
更生概要

スパン数	1.0	スパン
充てん材ストッパー箇所数	2.0	箇所
管口仕上げ箇所数	2.0	箇所
取付管口仕上げ工 φ200以下	2.0	箇所 (平面図より)
取付管口仕上げ工 φ250以下	0.0	箇所 (平面図より)
中間注入口数		箇所
管内注入口数	0.0	箇所

工種

ストリップ管			
標準ストリップ管	ストリップ	L形	484.380 m I-23
	SFジョイナー	L形	484.380 m I-24
製管工			29.400 m
スペーサー取付工	スペーサー	L形	29.400 m
補強鉄筋工			0.000 m (見積歩掛)
端部製管工	管径1350以上1500mm以下	1.500	m I-24
製管工 直線区間	管径1350以上1500mm以下	27.900	m I-30
製管工 曲線・段差区間			m
目地工			m
端部緊張工	管径800以上2000mm以下	2.0	箇所 I-34
既設管洗浄工	管径1500以上2000mm以下	29.400	m I-35
充てん材注入工	管径1500mm	29.400	m I-37
充てん材ストッパー量(1箇所当り)	管径1500mm		m ³ I-39
普通作業員			人 "
管内注入口工	管径1350以上1650mm以下	0.0	箇所 I-40
管口仕上げ工	管径1500mm	2.0	箇所 I-41
管ロッキング量(1箇所当り)		2.3	ℓ "

ストリップ管



既設管内径	b	1500.0	mm
ストリップ厚	t	17.5	mm
ストリップ有効幅	B1	250.0	mm
ストリップとSFジョイナーの1m当り容量	ast	0.00140	m3
スペーサー(2.3mm厚)の1m当り容量		0.00150	m3
スペーサー(頂部)幅		570	mm
スペーサー(底部)幅			mm
管頂部高	h	100.0	mm

ストリップ使用量

内周半径

更生管上部(下部)内半径

$$b' = \frac{\text{既設管内径}}{2} - \text{管頂部高} = \frac{1500.0}{2} - 100.0 = 650.0 \text{ mm}$$

更生管横部内半径

$$c' = \frac{\text{既設管内径}}{2} - \text{管側部高} = \frac{1500.0}{2} - 17.5 = 732.5 \text{ mm}$$

※補強鉄筋の場合、頂部と同数

更生管下部内半径

$$a' = \frac{\text{既設管内径}}{2} - \text{管底部高} = \frac{1500.0}{2} - 17.5 = 732.5 \text{ mm}$$

図心半径

更生管上部(下部)図心半径

$$b = b' + \frac{t}{2} = 650.0 + \frac{17.5}{2} = 658.75 \text{ mm}$$

更生管横部図心半径

$$c = c' + \frac{t}{2} = 732.5 + \frac{17.5}{2} = 741.25 \text{ mm}$$

更生管下部図心半径

$$a = a' + \frac{t}{2} = 732.5 + \frac{17.5}{2} = 741.25 \text{ mm}$$

周長

上半分周長

$$L_1 = \pi \sqrt{\frac{c^2}{2} + \frac{b^2}{2}} = \pi \sqrt{\frac{741.25^2}{2} + \frac{658.75^2}{2}} = 2202.9 \text{ mm}$$

下半分周長

$$L_2 = \pi \sqrt{\frac{c^2}{2} + \frac{a^2}{2}} = \pi \sqrt{\frac{741.25^2}{2} + \frac{741.25^2}{2}} = 2328.7 \text{ mm}$$

よって、ストリップ長は

$$L = L_1 + L_2 = 2202.9 + 2328.7 = 4532 \text{ m/巻}$$

ストリップ使用量

1mあたりのストリップ使用量(L×1000/B1+B2)は

$$\frac{L}{280.0} \times \frac{1000}{280.0} = \frac{4532}{280.0} \times \frac{1000}{280.0} = 16.2 \text{ m/m (ダンビー工法積算資料 I-12)}$$

巻立延長は 29.90m であるのでストリップ使用量は

$$\text{ストリップ使用量} \times \text{巻立延長} = 16.2 \times 29.90 = 484.38 \text{ m}$$

※ ダンビー工法積算資料 I-10より

$$\begin{aligned} \text{巻立延長} &= \text{管きよ延長} + (\text{ストリップ有効幅}(B1) \times 2) \\ &= 29.40 + 0.250 \times 2 \\ &= 29.90 \text{ m} \end{aligned}$$

ジョイナー使用量は、ストリップ使用量と同量である。

補強鉄筋重量

L= 更生延長	=	m	
主筋 D10	×	(×
配力筋 D10	×	×	=
			0 kg/m
			0 kg/m
		合計	=
			0 kg/m
補強筋控除	0.00	÷	7850 =
			0 m3/m

充てん材注入量

既設管内空面積

$$A_1 = \frac{\pi d^2}{4} = \frac{\pi \times 1500^2}{4} = 1767145.9 \text{ mm}^2 = 1.767 \text{ m}^2$$

更生管内空面積

上部

$$A_2 = \frac{\pi c' b'}{2} = \frac{\pi \times 732.5 \times 650.0}{2} = 747895.4 \text{ mm}^2$$

下部

$$A_3 = \frac{\pi c' a'}{2} = \frac{\pi \times 732.5 \times 732.5}{2} = 842820.6 \text{ mm}^2$$

合計

$$A = A_2 + A_3 = 747895.4 + 842820.6 = 1.591 \text{ m}^2$$

ストリップ管容積

$$A_{st} = a_{st} \times L = 0.00140 \text{ m}^3 \times 16.2 \text{ m} = 0.023 \text{ m}^3/\text{m}$$

a_{st} : 材料1mあたりのストリップ容積(ダンビー工法積算資料 I-13)
 L : 更生1mあたりのストリップ長

1m当たり充てん材注入量

$$\begin{aligned}
 V &= [A_1 - (A_2 + A_3)] \times 1\text{m} - \text{ストリップ管容積(ストリップ容量+SFジョイナー)} - \text{鋼材容量(スペーサー容量+補強材容量)} \\
 &= (1.767 - 1.591) \times 1 - 0.023 - 0.0009 \\
 &= 0.152 \text{ m}^3/\text{m}
 \end{aligned}$$

充てん材2注入量

別添材料計算書のとおり、CAD計測による。

$$\begin{aligned} \text{充てん材2(CAD)} &= 0.087 \quad \text{m}^3/\text{m} \\ \text{控除ストリップ長(CAD)} &= 0.854 \quad \text{m} \end{aligned}$$

1mあたり充てん材2注入量(V2)

$$= \text{充てん材2} - \text{ストリップ管容量} \\ = 0.087 - (0.854 \div 0.29 \times 0.0014)$$

$$V2 = 0.083 \quad \text{m}^3/\text{m}$$

充てん材1注入量

$$V1 = 1\text{m当り充てん材注入量} - \text{充てん材2} \quad (\text{ダンビー工法積算資料 I-13})$$

$$= 0.152 - 0.083$$

$$= 0.069 \quad \text{m}^3/\text{m}$$

1日当り注入量

1日当り総注入量

$$V = 4.20 \quad \text{m}^3/\text{日}$$

充てん材1注入量 (ダンビー工法積算資料 I-37)

$$V1 = 1\text{日当たりの充てん材量} \times \frac{1\text{m当りの充てん材1量}}{1\text{m当りの充てん材注入量(計)}}$$

$$= 4.20 \times \frac{0.069}{0.152}$$

$$= 1.91 \quad \text{m}^3/\text{日} \quad \text{※小数第3位四捨五入}$$

充てん材2注入量 (ダンビー工法積算資料 I-37)

$$V2 = 1\text{日当たりの充てん材量} \times \frac{1\text{m当りの充てん材2量}}{1\text{m当りの充てん材注入量(計)}}$$

$$= 4.20 \times \frac{0.083}{0.152}$$

$$= 2.29 \quad \text{m}^3 \quad \text{※小数第3位四捨五入}$$

管内注入口工

ダンビー工法積算資料 I-40ページ「管内注入口工(C-3-3)」注入区間が100mを超える場合や注入ホースの引き込みが不可能な場合(補強鉄筋等)は、管内より注入を行うための注入口の穿孔を行う。

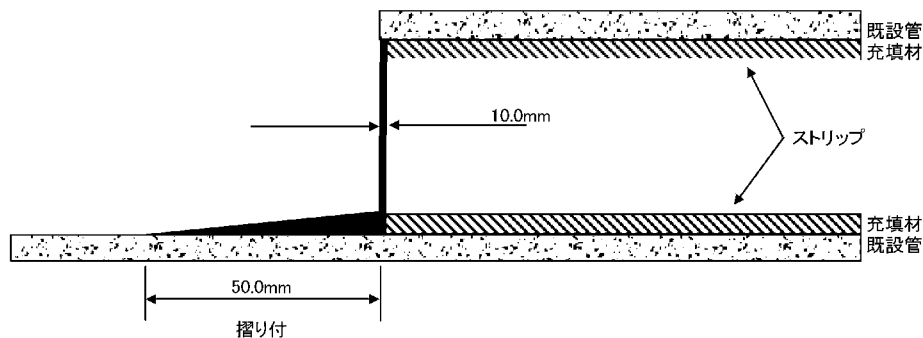
管内注入口は、左右2箇所3m以内毎、および管頂部1箇所7m以内毎に設ける。

$$\begin{aligned} N1 &= 0.00 \div 3 = 0 \text{ 個(切上げ)} & 0 \times 2 &= 0 \text{ 個} \\ N2 &= 0.00 \div 7 = 0 \text{ 個(切下げ)} & & \text{計 } 0 \text{ 個} \end{aligned}$$

注入終了後、注入口を管内注入口プラグにて閉塞する。

管口仕上げ工

人孔側壁と更生管の管口をエポキシ系コーキング材で仕上げる。



補強が必要な場合のエポキシコーキング量は
ダンビー工法積算資料I-41ページ「管口仕上工(C-4-1)」備考2より求める。

①管口下半面をすりつける場合
1箇所当り管口仕上材資料量(ℓ)

$$\begin{aligned} &= \{1\text{m当り充填材注入量} \times 0.01 + (\text{既設管下半分内空断面} - \text{更生管下半分内空面積}) \times 0.05 / 2\} \times 1000 \\ &= \{ 0.152 \times 0.01 + (0.884 - 0.843) \times 0.05 / 2 \} \times 1000 \\ &= 2.5 \text{ ℓ/箇所} \end{aligned}$$

止水工 設計使用量

積算計上値

異常箇所集計表(本管部)【Y字管工法】補助

内 容	部 位	周長(m/箇所)	箇所数	補修長(m)	路 線	備 考
浸入水a・b	本管部(全周)	3.14	9	28.3	通番156,157	φ 1000
浸入水a・b	本管部(全周)	3.46	6	20.7	通番158,159	φ 1100
浸入水a・b	本管部(全周)	4.24	4	17.0	通番160	φ 1350
浸入水a・b	本管部(全周)	4.71	17	80.1	通番161,162	φ 1500
合 計				146.08		

異常箇所集計表(取付管口部)【Y字管工法】補助

内 容	部 位	周長(m/箇所)	箇所数	補修長(m)	路 線	備 考
管口浸入水a,b	取付管口部(φ 150)	0.47	1	0.5	全路線	
管口浸入水a,b	取付管口部(φ 200)	0.63	0	0	全路線	
合 計				0.50		

異常箇所集計表(取付管内部)【パッカー工法】単独

内 容	部 位	周長(m/箇所)	箇所数	路 線	備 考
浸入水a・b	取付管内部(φ 150)	0.47	0	全路線	
浸入水a・b	取付管内部(φ 200)	0.63	0	全路線	
合 計			0		

止水工数量表

内 容	当初数量	単位	補・単	備 考	適用
本管Y字管注入工	146.08	m	補助	Y字管工法	本管部
取付管口注入工	0.50	m	補助	Y字管工法	管口部
取付管内注入工	0	箇所	単独	パッカー工法	取付管口部(φ 150)
取付管内注入工	0	箇所	単独	パッカー工法	取付管口部(φ 200)

Y字管注入工法 標準薬液注入量 補助

内 容	本管標準 m当り注入量 (L/m)	1日当り 作業量 (m)	1日当り 注入量 (L)	適用
本管部(φ 1000)	69.58	15	1043.7	下水道施設維持管理積算要領2020 p131
本管部(φ 1100)	68.07	15	1021.0	下水道施設維持管理積算要領2020 p131
本管部(φ 1350)	65.36	15	980.4	下水道施設維持管理積算要領2020 p131
本管部(φ 1500)	64.15	18	1154.6	下水道施設維持管理積算要領2020 p131
取付管口部 取付管(Φ 150mm)	79.55	18	1431.9	下水道施設維持管理積算要領2020 p131
取付管口部 取付管(Φ 200mm)	65.76	18	1183.6	下水道施設維持管理積算要領2020 p131

Y字管注入工法 止水セメント量 補助

内 容	本管標準 m当り使用量 (kg/m)	1日当り 作業量 (m)	1日当り 止水セメント使用量 (L)	適用
本管部(φ 1000)	5.23	15	78.5	下水道施設維持管理積算要領2020 p131
本管部(φ 1100)	5.23	15	78.5	下水道施設維持管理積算要領2020 p131
本管部(φ 1350)	5.23	15	78.5	下水道施設維持管理積算要領2020 p131
本管部(φ 1500)	5.23	18	94.1	下水道施設維持管理積算要領2020 p131
取付管口部 取付管(Φ 150mm)	3.14	18	56.5	下水道施設維持管理積算要領2020 p133
取付管口部 取付管(Φ 200mm)	3.14	18	56.5	下水道施設維持管理積算要領2020 p133

パッカー注入工法 標準薬液注入量 単独

内 容	本管標準 箇所当り注入量 (L/箇所)	1日当り 作業量 (箇所)	1日当り 注入量 (L)	備 考
取付管内部 φ 150mm	75	13	975.0	下水道施設維持管理積算要領2020 p127 日当り作業量「本管目地:管径 200mm」を準用 下水道施設維持管理積算要領 2020 p124
取付管内部 φ 200mm	83	13	1079.0	下水道施設維持管理積算要領2020 p127 下水道施設維持管理積算要領 2020 p124

【注入量計算】

①注入量計算【Y字管工法】 本管φ1000

本管内径	1	m	
管厚	0.082	m	新潟市下水道施設基準図面集
周長	3.14	m	内径×円周率
D:管外径	1.164	m	内径+(管厚×2)
H:注入厚	0.3	m	下水道施設維持管理積算要領P132
L:注入幅	0.6	m	下水道施設維持管理積算要領P132

$$\begin{aligned}
 V: \text{注入範囲} &= \pi [(D+2H)^2 - D^2] / 4 \times L && \text{下水道施設維持管理積算要領P132} \\
 &= \pi \times \{ (1.164 + 0.6)^2 - 1.164^2 \} / 4 \times 0.6 \\
 &= 0.8278725 \text{ m}^3 \\
 &= 0.828 \text{ m}^3 && \text{有効数字小数点3桁、4桁目四捨五入}
 \end{aligned}$$

n:土の間隙率	0.4	下水道施設維持管理積算要領P133
α:充填率	0.6	下水道施設維持管理積算要領P133
β:損失係数	0.1	下水道施設維持管理積算要領P133

$$\begin{aligned}
 Q: \text{注入量} &= V \times n \times \alpha (1 + \beta) \times 1000 && \text{下水道施設維持管理積算要領P133} \\
 &= 0.828 \times 0.4 \times 0.6 (1 + 0.1) \times 1000 \\
 &= 218.5920 \text{ L} \\
 &= 218.592 \text{ L} && \text{有効数字小数点3桁、4桁目四捨五入}
 \end{aligned}$$

$$\begin{aligned}
 1 \text{ 箇所あたりの注入量} &= 218.592 \text{ L} \\
 1 \text{ 箇所あたりの注入量(m換算)} &= 69.58 \text{ L/m} && 1 \text{ 箇所あたりの注入量} \div \text{周長}
 \end{aligned}$$

②注入量計算【Y字管工法】 本管φ1100

本管内径	1.1	m	
管厚	0.088	m	新潟市下水道施設基準図面集
周長	3.46	m	内径×円周率
D:管外径	1.276	m	内径+(管厚×2)
H:注入厚	0.3	m	下水道施設維持管理積算要領P132
L:注入幅	0.6	m	下水道施設維持管理積算要領P132

$$\begin{aligned}
 V: \text{注入範囲} &= \pi [(D+2H)^2 - D^2] / 4 \times L && \text{下水道施設維持管理積算要領P132} \\
 &= \pi \times \{ (1.276 + 0.6)^2 - 1.276^2 \} / 4 \times 0.6 \\
 &= 0.891207 \text{ m}^3 \\
 &= 0.891 \text{ m}^3 && \text{有効数字小数点3桁、4桁目四捨五入}
 \end{aligned}$$

n:土の間隙率	0.4	下水道施設維持管理積算要領P133
α:充填率	0.6	下水道施設維持管理積算要領P133
β:損失係数	0.1	下水道施設維持管理積算要領P133

$$\begin{aligned}
 Q: \text{注入量} &= V \times n \times \alpha (1 + \beta) \times 1000 && \text{下水道施設維持管理積算要領P133} \\
 &= 0.891 \times 0.4 \times 0.6 (1 + 0.1) \times 1000 \\
 &= 235.2240 \text{ L} \\
 &= 235.224 \text{ L} && \text{有効数字小数点3桁、4桁目四捨五入}
 \end{aligned}$$

$$\begin{aligned}
 1 \text{ 箇所あたりの注入量} &= 235.224 \text{ L} \\
 1 \text{ 箇所あたりの注入量(m換算)} &= 68.07 \text{ L/m} && 1 \text{ 箇所あたりの注入量} \div \text{周長}
 \end{aligned}$$

③注入量計算【Y字管工法】 本管φ1350

本管内径	1.35	m	
管厚	0.103	m	新潟市下水道施設基準図面集
周長	4.24	m	内径×円周率
D:管外径	1.556	m	内径+(管厚×2)
H:注入厚	0.3	m	下水道施設維持管理積算要領P132
L:注入幅	0.6	m	下水道施設維持管理積算要領P132

$$\begin{aligned}
 V: \text{注入範囲} &= \pi [(D+2H)^2 - D^2] / 4 \times L && \text{下水道施設維持管理積算要領P132} \\
 &= \pi \times \{ (1.556 + 0.6)^2 - 1.556^2 \} / 4 \times 0.6 \\
 &= 1.04954327 \text{ m}^3 \\
 &= 1.05 \text{ m}^3 && \text{有効数字小数点3桁、4桁目四捨五入}
 \end{aligned}$$

n:土の間隙率	0.4	下水道施設維持管理積算要領P133
α:充填率	0.6	下水道施設維持管理積算要領P133
β:損失係数	0.1	下水道施設維持管理積算要領P133

$$\begin{aligned}
 Q: \text{注入量} &= V \times n \times \alpha (1 + \beta) \times 1000 && \text{下水道施設維持管理積算要領P133} \\
 &= 1.05 \times 0.4 \times 0.6 (1 + 0.1) \times 1000 \\
 &= 277.2000 \text{ L} \\
 &= 277.2 \text{ L} && \text{有効数字小数点3桁、4桁目四捨五入}
 \end{aligned}$$

$$\begin{aligned}
 1 \text{ 箇所あたりの注入量} &= 277.2 \text{ L} \\
 1 \text{ 箇所あたりの注入量(m換算)} &= 65.36 \text{ L/m} && 1 \text{ 箇所あたりの注入量} \div \text{周長}
 \end{aligned}$$

④注入量計算【Y字管工法】 本管φ1500

本管内径	1.5	m	
管厚	0.112	m	新潟市下水道施設基準図面集
周長	4.71	m	内径×円周率
D:管外径	1.724	m	内径+(管厚×2)
H:注入厚	0.3	m	下水道施設維持管理積算要領P132
L:注入幅	0.6	m	下水道施設維持管理積算要領P132

$$\begin{aligned}
 V: \text{注入範囲} &= \pi [(D+2H)^2 - D^2] / 4 \times L && \text{下水道施設維持管理積算要領P132} \\
 &= \pi \times \{ (1.724 + 0.6)^2 - 1.724^2 \} / 4 \times 0.6 \\
 &= 1.14454504 \text{ m}^3 \\
 &= 1.145 \text{ m}^3 && \text{有効数字小数点3桁、4桁目四捨五入}
 \end{aligned}$$

n:土の間隙率	0.4	下水道施設維持管理積算要領P133
α:充填率	0.6	下水道施設維持管理積算要領P133
β:損失係数	0.1	下水道施設維持管理積算要領P133

$$\begin{aligned}
 Q: \text{注入量} &= V \times n \times \alpha (1 + \beta) \times 1000 && \text{下水道施設維持管理積算要領P133} \\
 &= 1.145 \times 0.4 \times 0.6 (1 + 0.1) \times 1000 \\
 &= 302.2800 \text{ L} \\
 &= 302.28 \text{ L} && \text{有効数字小数点3桁、4桁目四捨五入}
 \end{aligned}$$

$$\begin{aligned}
 1 \text{ 箇所あたりの注入量} &= 302.28 \text{ L} \\
 1 \text{ 箇所あたりの注入量(m換算)} &= \boxed{64.15} \text{ L/m} && 1 \text{ 箇所あたりの注入量} \div \text{周長}
 \end{aligned}$$

③注入量計算【Y字管工法】 取付管φ150

手入力

本管内径	0.15	m	
管厚	0.026	m	新潟市下水道施設基準図面集
周長	0.47	m	内径×円周率
D:管外径	0.202	m	内径+(管厚×2)
H:注入厚	0.3	m	下水道施設維持管理積算要領P132
L:注入幅	0.6	m	下水道施設維持管理積算要領P132

$$\begin{aligned}
 V: \text{注入範囲} &= \pi [(D+2H)^2 - D^2] / 4 \times L && \text{下水道施設維持管理積算要領P132} \\
 &= \pi \times \{ (0.202 + 0.6)^2 - 0.202^2 \} / 4 \times 0.6 \\
 &= 0.28387431 \text{ m}^3 \\
 &= 0.284 \text{ m}^3 && \text{有効数字小数点3桁、4桁目四捨五入}
 \end{aligned}$$

n:土の間隙率	0.4	下水道施設維持管理積算要領P133
α:充填率	0.6	下水道施設維持管理積算要領P133
β:損失係数	0.1	下水道施設維持管理積算要領P133

$$\begin{aligned}
 Q: \text{注入量} &= V \times n \times \alpha (1 + \beta) \times 1000 && \text{下水道施設維持管理積算要領P133} \\
 &= 0.284 \times 0.4 \times 0.6 (1 + 0.1) \times 1000 \\
 &= 74.9760 \text{ L} \\
 &= 74.976 \text{ L} && \text{有効数字小数点3桁、4桁目四捨五入}
 \end{aligned}$$

$$\begin{aligned}
 1 \text{ 箇所あたりの注入量} &= 74.976 \text{ L} \\
 1 \text{ 箇所あたりの注入量} &= 37.488 \text{ L} && \text{管口のため注入量} 1/2 \\
 1 \text{ 箇所あたりの注入量(m換算)} &= \boxed{79.55} \text{ L/m} && 1 \text{ 箇所あたりの注入量} \div \text{周長}
 \end{aligned}$$

太平洋アロフィクスMC-2号の標準配合

配合(400L)			
A液(200L)		B液(200L)	
太平洋アロフィクスMC	100kg	太平洋アロフィクスSS	100kg
MCヘルパー	1kg	GT調整剤	2.5kg
水	166kg	水	112kg

1セット当りの標準配合

配合(80L)			
A液(40L)		B液(40L)	
太平洋アロフィクスMC	20kg	太平洋アロフィクスSS	20kg
MCヘルパー	0.2kg	GT調整剤	0.5kg
水	33.2kg	水	22.4kg